

伊勢志摩サミット三重県民会議第2回総会

事項書

日時：平成27年10月13日（火）

13:30～14:30

場所：県庁講堂

1. 開会

2. 議題

(1) シンボルマーク・第2弾ポスターの発表について

(2) ポスターの公募について

(3) 活動報告について

- ①事業計画
- ②平成27年度収支予算
- ③広報全体計画
- ④国への提案

(4) 県民全体のサミットへの参画について（協賛、応援、寄附の状況等）

(5) その他

3. 閉会

【配布資料】

- ・資料 1 : シンボルマーク候補案
- ・資料 2 : ポスターの公募について
- ・資料 3 - 1 : 事業計画
- ・資料 3 - 2 : 平成 27 年度収支予算
- ・資料 3 - 3 : 広報全体計画について
- ・資料 3 - 4 - 1 : 2016 ジュニアサミット三重県開催に係る要望書
2016 ジュニアサミット開催提案書
- ・資料 3 - 4 - 2 : 県産食材等の活用及び首脳会議場等における県産品・伝統工芸品の活用に係る要望書
- ・資料 4 : 協賛、応援、寄附の申込状況等について
- ・参考資料 1 : 伊勢志摩サミット三重県民会議会員名簿
- ・参考資料 2 : 県民会議各事業について
 - 2 - 1 : 宿泊予約センターについて
 - 2 - 2 : 配偶者プログラムについて
 - 2 - 3 : ジュニアサミットについて
 - 2 - 4 : シンボルマークの作成について
 - 2 - 5 : サミットフォーラムの開催について
 - 2 - 6 : 県産食材等の利用促進に向けた取組について
 - 2 - 7 : 弁当供給体制の整備について
 - 2 - 8 - 1 : クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について
 - 2 - 8 - 2 : 花いっぱいおもてなし活動について
 - 2 - 9 : ホームページ・SNS のリニューアル及び運営について
 - 2 - 10 : 公式ポスター第 2 弾以降の制作について
 - 2 - 11 : カウントダウンボード・ノベルティを活用したPR 展開
 - 2 - 12 : プレス等を活用した情報発信の展開について
 - 2 - 13 : 三重県情報館（仮称）について
 - 2 - 14 : 三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について
 - 2 - 15 : 多様な主体における国際理解・国際交流事業について
 - 2 - 16 - 1 : インフォメーション機能の整備について
 - 2 - 16 - 2 : 外国語案内ボランティアについて

シンボルマーク候補案

番号	A案	B案	C案
候補案			
作者コメント	<p>三重県から世界にメッセージを発信していくことを表現しています。</p> <p>サミットを機に、人々のつながりが三重県を飛び出して、国際的により発展してほしいという願いを込めています。</p>	<p>手を繋ぐ2人で、次世代へのつながりを表現しています。</p> <p>波線は、世界の人々と三重県の人々のつながりのタスキを表現しています。</p> <p>サミットで培われたあたたかなつながりを次世代へ受け継いでいくという決意を込めています。</p>	<p>赤色の円と包む葉で、おもてなしの心を表現しています。</p> <p>3本の波線で、三重の三、そして、自然・文化・世界の人々と三重県民のつながりを表現しています。</p> <p>サミットで培われたおもてなしの心が未来へつながって、笑顔溢れる世界にしていくという決意を込めています。</p>

平成27年10月13日
事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスターの展開について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットをPRするため第1弾ポスターを制作したが、第2弾から第5弾までのポスターを作成することで、サミット開催の告知や「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

第1弾 「起」：サミットが伊勢志摩で開催されることをPRし、期待感を醸成

第2弾 「承」：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

★第3・4弾 「転」：ポスターの公募

第5弾 「結」：「明日へつなぐ」をテーマに、県民のこれまでの活動を振り返り

サミット終了が新たなスタートと訴求

3 第3弾ポスターの公募

- ・第3弾ポスターは、より高品質なポスターとするため公募形式とする。
- ・ポスターのテーマを「サミット開催に向けてのおもてなしの心」とする。
「おもてなし」や「歓迎」といった伝わりにくいテーマを人々に訴えかけるポスターとして表現することで、県民の意識啓発を目指す。
- ・ポスターの印刷や配布については、企業等の協賛を募集する。
- ・なお、第4弾のポスターについても公募を想定。

①期間 平成27年10月14日（木）から11月13日（金）

②対象 資格は問わない（県外を含む）

③選考方法

第一次審査	民間の方を含む選考委員	(最大30作品まで推薦)
第二次審査	同上	(4作品を選定)
最終審査	会長及び上記選考委員	(最優秀賞1作品を決定)

④選考基準

デザイン性、テーマの表現性、誘客性等を選考基準とする

4 全体スケジュール（第3弾ポスター）

- 10月13日（火） 県民会議総会にて発表
14日（水） 募集開始
11月13日（金） 募集終了
中旬 第一次審査（最大30作品を推薦）
下旬 第二次審査（4作品を選定）
下旬 著作権の確認
12月中旬 県民会議会長及び選考委員による最優秀賞の決定
中旬 最優秀賞者表彰及び知事記者発表
下旬 第3弾ポスターの配布（開催150日前ウィークを想定）

5 ポスターの活用・展開事項

県民会議関係者、市町、県、県出先機関、希望者（企業・団体・個人）郵便局、金融機関、商業施設、公共交通機関関係、各種イベントベース等での掲示を想定

平成27年10月13日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画

1 「開催支援」に関すること

◆ 伊勢志摩サミット宿泊予約センターの設置（事業番号1）

サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う伊勢志摩サミット宿泊予約センターを設置する。

◆ 配偶者プログラムの提案（事業番号2）

首脳会議が1泊2日で予定されていることから、その期間内で実施することを想定し、テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討し、三重県の魅力がプログラムに盛り込まれるよう、国への提案を行う。

◆ 県産食材等の利用促進に向けた取組（資料番号6）

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案する。

◆ 弁当供給体制の整備（資料番号7）

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供するための体制を整備し、関係者用の受注窓口を設置する。三重県産食材の使用も含めて検討を行う。

◆ インフォメーション機能の整備（事業番号16）

世界各国からの来訪者をおもてなしの心でお迎えするため、外国語案内ボランティアを幅広く募集し、地元市町・団体等との協力により、空港や駅等における移動支援・観光案内等のインフォメーション機能を提供する。

◆ 輸送サービスの円滑な提供

関係者の円滑な移動のため、バス等の移動手段の運行に係る協力、支援を行う。

- ◆ 警備関係への協力や住民への情報提供
 - 地元市町等と調整のうえ、住民懇話会を開催し、サミットに関する情報を、地元関係団体・住民に提供し、伊勢志摩サミット開催に対する理解促進と機運醸成、警備体制の理解を求め、住民が有する疑問や課題の解決を行う。
- ◆ 公式行事に伴う歓迎交流
 - 空港等における歓迎行事や歓迎レセプションを国等と連携して実施し、来県する各国首脳等に、歓迎の意を表明する。
 - 県民（特に子どもたち）が各国首脳と触れ合う機会をつくるため、交流行事を検討する。
- ◆ 伊勢志摩サミットの開催機運を盛り上げるためのレセプション開催
 - サミット関係大使館等を招き、サミットの開催機運を盛り上げるとともに三重の魅力を伝えるため、レセプションを開催する。

2 「おもてなし」に関すること

- ◆ 機運醸成に向けたサミットフォーラムの開催（事業番号5）
 - 伊勢志摩サミットへの理解を深め、開催機運を醸成するため、「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」などを県民とともに考えるサミットフォーラムを開催する。
- ◆ クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動の実施（事業番号8）
 - 世界各国からの来訪者に対し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わるため、全県的に環境美化・清掃活動、飾花運動を行う。キックオフイベントを行うことで県民参加による伊勢志摩サミット開催の機運醸成や参加意識の向上を目指す。
- ◆ カウントダウンボード、ノベルティを活用したPRの実施（事業番号11）
 - 伊勢志摩サミットに向けて、協賛事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、伊勢志摩サミット開催の機運醸成を目指す。
 - 関係閣僚会合や三重テラス等PR効果の高い県外でのイベントや三重県で開催される全国大会等において、ポストカード等の各種PRツールを用いて幅広く周知を行う。

◆ おもてなし向上研修などの実施

世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行うとともに、国際観光地としてレベルアップのため、外国人接遇研修の実施や、外国人接遇用のハンドブックの制作・配布を行う。

3 「明日へつなぐ」に関すること

◆ ジュニアサミットの開催（事業番号3）

三重の魅力の発信や明日へつながる交流を残すため、ジュニアサミットの県内開催を要望し、開催決定した際には、三重県の独自性を生かすとともに、県内高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国に提案する。

◆ 多様な主体における国際理解・国際交流事業の開催（事業番号15）

サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供する。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとすることで、明日を担う世代の育成を目指す。

4 「三重の発信」に関すること

◆ シンボルマークの制定（事業番号4）

県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民が自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで伊勢志摩サミット開催の機運醸成を行う。シンボルマーク作成にあたっては、北勢きらら学園在校時の作品が2008年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された近藤氏に依頼し、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信する。

◆ ロゴマーク募集事業への協力依頼

伊勢志摩サミット開催の機運醸成のため、県内学校等に向けて国のロゴマーク募集事業への積極的な協力を依頼する。

◆ ホームページ、SNSでの発信（事業番号9）

ホームページ、Facebook、Twitterを活用し、県民会議の取組、三重の魅力やサミットに向けた情報を効果的に幅広く発信する。

◆ ポスター、リーフレット、チラシ等によるPRの実施（事業番号10）

伊勢志摩サミット開催の機運醸成と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする「伊勢志摩サミット 2016」ポスターを第5弾まで作成し、多くの人々に伊勢志摩サミットの三重県開催のPRを実施する。

◆ プレス等を活用した情報発信（事業番号12）

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透を図るため、プレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催する。

◆ 三重県情報館（仮称）の設置（事業番号13）

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の魅力を国内外に発信するための拠点として「三重県情報館（仮称）」の設置を要望し、日本の中の「地方」の代表として三重県の伝統・文化、食、技術などの魅力を発信する。

◆ 三重テラス、関西事務所など県外でのイベント等の展開

伊勢志摩サミット開催及び開催地である三重県の全国的な発信のため、三重テラス等にて、2016年伊勢志摩サミット開催に向けたイベント等を展開するとともに、関係閣僚会合開催県と連携を図り、双方のPRを行う。

◆ 海外ミッションの機会等を利用したPRの実施

三重県での伊勢志摩サミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、海外ミッションにおいて伊勢志摩サミットに関するPRを実施する。

伊勢志摩サミット三重県民会議 平成27年度収支予算

1 収入の部

(単位:千円)

科 目	本年度予算額	摘要
負担金	(100,000) 302,748	県負担金、市町負担金 寄附金等
諸収入	0	その他
合計	(100,000) 302,748	

2 支出の部

(単位:千円)

科 目	本年度予算額	摘要
事業費	(87,000) 233,990	開催支援、事業推進経費
事務局費	(13,000) 68,758	事務局運営経費、予備費
合計	(100,000) 302,748	

伊勢志摩サミット三重県民会議

平成27年度收支予算 内訳

(単位:千円)

収入

科目	項目	主な内容	予算額
負担金	県負担金		(87,000) 139,748
		寄附金分	(0) 150,000
	市町負担金	志摩市 伊勢市 鳥羽市 南伊勢町	6,000 3,000 3,000 1,000 13,000
諸収入	その他		0
合計			(100,000) 302,748

※県負担金については、県予算が決定していないため、修正となる場合があります

支出

(単位:千円)

科目	項目	主な取組	予算額
事業費	開催支援	宿泊予約センターの設置、輸送サービスの円滑な提供 配偶者プログラムの提案 弁当供給センターの設置 インフォメーション機能の整備 警備関係への協力や住民への情報提供 開催機運を盛り上げるためのレセプション開催など	
		計	(3,400) 22,150
おもてなし		機運醸成に向けたサミットフォーラムの開催 クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動の実施 おもてなし向上研修などの実施	
		計	(7,000) 38,403
明日へつなぐ		ジュニアサミットの開催 多様な主体における国際理解・国際交流事業の開催	
		計	(28,000) 13,380
三重の発信		シンボルマークの制定、ロゴマーク募集事業への協力依頼 ホームページ、SNSでの発信 ポスター、リーフレット、チラシ等によるPRの実施 プレス等を活用した情報発信 三重県情報館(仮称)の設置 三重テラス、関西事務所など県外でのイベント等の展開 海外ミッションの機会等を利用したPRの実施など	
		計	(48,600) 160,057
事務局費	県民会議開催費	総会、役員会、部会の開催	(2,000) 2,300
	事務局運営費	一般事務費等	(11,000) 19,740
	予備費		(0) 46,718
	計		(13,000) 68,758
合計			(100,000) 302,748

平成 27 年 10 月 13 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

広報全体計画について

1 基本的な考え方

- ◆ 本日現在、サミット開催まで 226 日。この残された 226 日間全体の広報計画を、以下の考え方で展開したい。
 - ① 県内外の一般およびプレス関係者など全てのステイクホルダーにとって分かりやすい、開催までの節目日（200 日前、100 日前等）を展開軸とする。
 - ② 節目日を含む概ね 1 週間を、「○○日前ウィーク」と設定。県および県民会議の自主事業や市町連携事業さらには応援事業等の広報要素を、「○○日前 ウィーク」の中に束ねる計画としていく。
 - ③ およそ 50 日間隔の「広報・発信のリズム」「広報のヤマ場」を創ることにより、広報のテーマ浸透や県民参加などの各種活動を活発・推進させたい。
 - ④ 上記に合わせて、各部局および県内企業の独自事業についても、各節日期での開催を呼びかける。

2 各節目時期の主な活動（※調整中の案件を含む）

- ◆ 200 日前（2015 年 11 月 8 日（日））<200 日前 ウィーク；11 月 5～11 日>
 - ・（協賛事業ほか）カウントダウンボード一斉設置（県内）
 - ・（応援事業）新聞・TV 等でのカウントダウンスタート
 - ・（応援事業）県内集客施設での 200 日前イベント
 - ・その他県・市町・団体・企業等連携・応援事業
- ◆ 150 日前（12 月 28 日（月））<150 日前 ウィーク；12 月 25～31 日>
 - ・第 2 回サミットフォーラム
 - ・三重テラスでのイベント
 - ・公募デザインによる第 3 弹ポスター（おもてなしの心）掲出開始
 - ・（協賛事業ほか）カウントダウンボード一斉設置（県内外）
 - ・その他県内年末イベントとの連携
- ◆ 100 日前（2016 年 2 月 16 日（火））<100 日前 ウィーク；2 月 13～19 日>
 - ・国際フォーラムの開催
 - ・「美し国みえ市町対抗駅伝」での PR（2 月 21 日（日）、津～伊勢）
 - ・クリーンアップ活動キックオフイベント（東海 3 県 1 市も検討）
- ◆ 50 日前（2016 年 4 月 6 日（水））<50 日前 ウィーク；4 月 3～9 日>
 - ・第 3 回サミットフォーラム
 - ・4 月 16 日「県民の日」イベント
 - ・公募デザインによる第 4 弹ポスター掲出開始
- ◆ 30 日前（2016 年 4 月 26 日（火））<30 日前 ウィーク；4 月 23～29 日>
 - ・花いっぱい運動飾花キックオフイベント
 - ・こどもの日イベント
- ◆ 10 日前（2016 年 5 月 16 日（月））<10 日前 ウィーク；5 月 13～19 日>
 - ・県内一斉清掃活動

200日前 11/8(日) [11.5-11]	150日前 12/28(日) [12.5-31]	重点エリア 広報テーマ サミットの 認知促進
-------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

重点エリア

150日前 2/16(火) [2/13-19]	100日前 4/6(水) [4/3-9]	50日前 4/26(火) [4/23-29]	30日前 5/13(水) [5/10-16]	10日前 5/16(木) [5/13-19]
-------------------------------	----------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

県内一般

全国的な話題性UP(自転車)

県内アクションの実効化

行動実践

行動強化

明日へつなぐ

100日前 2/16(火) [2/13-19]	50日前 4/6(水) [4/3-9]	30日前 4/26(火) [4/23-29]	10日前 5/13(水) [5/10-16]
-------------------------------	---------------------------	------------------------------	------------------------------

国際化発信

行動実現

明日へつなぐ

明日へつなぐ

平成27年		平成28年		平成29年	
8月	9月	10月	11月	12月	1月
開催準備盛り上げのための レセッション		開催			
先達敬老歓迎行事					
インフォメーションセンター			代々田テイア募集		
サミットフォーラム	⑤9月1回		第2回	ボランティア募集	●解説式
クリーンアップ活動				キックオフ	第3回
花火大会運動					県内一斉清掃
カウントダウンボード		設置			キックオフ
おちでなし					
明日へつなぐ					
県内外イベントでのPR					
ホームページ・SNS				三重ラスベガス リニューアル多 言語化	
各種メディアでの発信					
情報誌・ハンドブック					
ポスター			⑥第3回		
みえだより			10/5		
県政だより			10/6		
シンポジマーク		⑦(3)	10/7		
国際フォーラム			10/8		
海外プレスツアー	⑧ 海外プレスツアー (毎日新聞等)		10/9		
三重県情報館 (坂井)		ニューポート	10/10		
県・市町説明会			10/11		
各種応援事業との連携			10/12		
(県主催事業、市町主催事業、民間との連携)			10/13		
			10/14	⑨ 2/13-19 中部四国観光会議 11/4-15 子育てのまちくわくワールド 11/20-21 ティンク発表会	⑩ 4/16県民の日 中部四国観光会議 中国空港空港祭 三重県へ

◆ 各都日の取扱い開催回数。 ◆ OD会場やイベント開催を。 ◆ 旅券会場などはまだ決めていない。 ◆ 本会場開催地はまだ決めていない。 ◆ 5月日程は未定のため未記載。

資料3-別表

2016 ジュニアサミット 三重県開催に係る要望書



平成27年8月5日

三 重 県

外務大臣 岸田 文雄 様

日頃より、伊勢志摩サミット開催に向けた準備等に、ご指導、ご鞭撻を賜り、
厚く御礼申し上げます。

さて、ジュニアサミットにつきましては、本年ドイツで開催されました主要国首脳会議（サミット）にあわせ、6年ぶりの開催となりました。2016年におきましても、伊勢志摩サミットにあわせて、ぜひ、本県においてジュニアサミットを開催いただくよう要望いたします。

本県は、日本の原風景ともいえる美しい自然や、その自然との共生の中で育まれ、大切に受け継がれてきた豊かな伝統・文化など、世界中の人々に誇れる魅力が数多くあるとともに、多様な価値観を受け入れ、共存する日本人の精神性を強く受け継ぐ地でもあります。ジュニアサミットの参加者や関係者等、来訪いただく方々にとって、本県での開催は、まさに日本の魅力そのものに触れ、体感いただける絶好の機会となると考えています。

2008年に開催されたJ8サミット千歳支笏湖では、地元の子ども達と参加者との交流を通じた国際理解が深まるとともに、開催後の継続的な交流や地元住民も含めた主体的な取組に繋がり、ジュニアサミットが得難い経験となつたと伺っており、本県においても、開催の成果を未来に生かしていきたいと考えています。

また、首脳会議が行われる伊勢志摩以外の地域においても、地域特性を存分に活用し、多様な会議を開催することで、国際会議をはじめとしたMICEの誘致に取り組んできたいと考えています。

ジュニアサミットの開催につきましては、県内の自治体からも強い希望があり、会場受入の意向調査を行ったところ、複数の自治体から、是非とも会場として受け入れたいとの意向がありました。このように、本県では、県・市町が一体となって、県民あげてジュニアサミットの開催に臨む、力強い機運が高まっています。

本県での開催を決定いただいた折には、三重県ならではの討議テーマの提案や討議に資する現地視察、県内各地分散型の三重県ならではの体験・交流等について、改めてご提案申し上げ、協議させていただきたいと存じますので、本県での開催について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年8月5日

三重県知事 鈴木 英敬

2016 ジュニアサミット 開催提案書

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～



平成27年9月17日
三重県

(写)

履経第36-2号
平成27年9月17日

外務省国際文化交流審議官
新美 潤様

三重県雇用経済部
伊勢志摩サミット推進局長

2016ジュニアサミットにかかる開催提案書について

日頃より、伊勢志摩サミット開催に向けた三重県での準備等にご指導を賜り、
厚く御礼申し上げます。

さて、ジュニアサミットにつきましては、8月5日、三重県知事から中山副大臣に本県での開催を要望させていただいたところです。今回、本県での開催日程案、三重県ならではの討議テーマ及び討議に資する視察先についてご提案申し上げます。

本提案をぜひ採用いただき、充実した視察を踏まえた実りある議論をしていただくとともに、集中討議の日程以外に、日本の原風景ともいえる美しい自然や、その自然との共生の中で育まれ、大切に受け継がれてきた豊かな伝統・文化など、日本の魅力そのものを体験・体感いただく機会を設けていただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

なお、本県での開催及び開催地が決定した際には、県内各地分散型の三重県ならではの体験・交流等について、改めてご提案申し上げたいと存じますので、本県での開催について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

1 開催日程（案）

	午 前	午 後	夜
1 日目		・三重県到着	
2 日目	・ブリーフィングセッション	・開会式兼歓迎行事 ・開催地域周辺視察	※2
3 日目	※1 討議に資する視察 (県内高校生等も参加)		※2
4 日目	・集中討議		※2
5 日目	・集中討議		※2
6 日目	・集中討議		※2
7 日目	※3 県内分散型体験・交流プラン (県内高校生等との交流)	・閉会式	
8 日目	・東京へ移動	・総理への成果文書提出	
9 日目	・帰国		

・※1…討議に資する視察（県内高校生等も参加）

2 討議テーマ及び討議に資する視察先（P2～P9）のとおりご提案します。

・※2…地元自治体による歓迎・交流行事、地域イベント等の視察、ローカル版クールジャパン（クール三重）の体験及び交流
バーベキュー、お茶や将棋体験、忍者体験等
詳細については開催地決定後、改めてご提案します。

・※3…県内分散型体験・交流プラン（県内高校生等との交流）
詳細については、開催地決定後、改めてご提案します。

2 討議テーマ及び討議に資する視察先

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～

(1) 世界の課題

2015年ドイツ・エルマウサミットにおいては、「気候変動とエネルギー」がテーマの一つとして議論されました。気候変動については、2015年12月にパリで開催される国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、2020年以降の温室効果ガス排出量削減に関する国際枠組みを決めることとなっており、伊勢志摩サミットが開催される2016年は、各国が取組の強化を、改めてスタートする重要な節目の年です。

気候変動をはじめ、天然資源の枯渇の懸念、生物多様性の損失等の環境問題は、人類の生存基盤に関わる極めて重要な問題となっています。従来の大量生産・消費型の経済社会活動から転換し、自然界から得る資源と、自然界に排出する廃棄物を自然環境が許容できる範囲内に抑え、循環共生型の持続可能な社会を構築することが求められています。この実現のためには、私たち一人ひとりが問題意識を持ち、行動につなげるための教育が必要です。

2014年11月、愛知県名古屋市において、日本と国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の共催で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。会議では、日本が2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）」において、持続可能な開発のためには人材育成が重要と提唱し、2005年から開始された「持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」の成果に係る評価が行われ、2015年以降のグローバル・アクション・プログラム等が採択されました。

この地球の健全で恵み豊かな環境を、世界規模から身近な地域まで保たれたまま次世代に継承すること、あわせて、持続的に成長・発展する経済社会を実現することが世界的な課題となっています。この課題の解決のためには、ESDの視点が重要となってきます。

(2) ジュニアサミットの討議テーマ

世界の課題を踏まえ、ジュニアサミットにおいては、
「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をテーマとし、環境保全と経済成長を両立し、気候変動やエネルギー問題を解決しながら、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について討議いただくことをご提案します。

ジュニアの視点からの議論を通じて、環境と持続可能な社会について、世界中の人々の問題意識の醸成と行動につながることを期待しています。

三重県は、典型的な日本の地方でありながら、環境と持続可能な社会に関しては、
「四日市公害の歴史や教訓」、「世界に誇る環境保全技術」、「中期経済成長率予測No.1（2013-25年）の製造業」、「地域資源を活用した再生可能エネルギー技術の導入」、「水と共生してきた人々の暮らし」、「森里川海の豊かな自然環境」、「世界遺産である熊野古道伊勢路」というように、世界に発信できる経験や技術の蓄積を有する強みを持っています。

三重県では、四日市公害の歴史や教訓を通して、大気汚染防止や水質汚濁防止等の環境保全技術が発達してきました。日本で唯一の組織として、公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）を設置し、高度な環境保全技術を発展途上国等に移転することで、地球環境の保全に貢献しています。

また、三重県は、世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」や「MRJ（三菱リージョナルジェット）」の部材の生産工場を有し、EV（電気自動車）や水素エネルギーに関する取組を行うなど、最先端技術の「ショールーム」となっており、「民間が公表した2025年までの都道府県別成長率予測が全国1位となっています。

一方、三重県では、様々な企業が、豊かな自然資源を背景に、エコで画期的な技術に先進的に取り組んでいます。例えば、豊富な森林資源を活かした木質バイオマス発電、工場の排熱や余剰蒸気を再利用した新しい農業などが行われており、再生可能エネルギーを活用して、地域の基幹産業である農林水産業と商工業が連携し、環境に配慮しながら地域経済を活性化するという相乗効果が生まれています。

さらに、三重県は、戦後初の国立公園である「伊勢志摩国立公園」を有しております、今回、伊勢志摩サミットが開催される伊勢志摩地域は、このエリアに属し、リアス式海岸特有の複雑に入り組んだ美しい海岸線が広がり、大小の島々や山の緑など、素晴らしい自然環境が広がっています。この環境を生かし、世界各国の高校生が集い、地

学の実力を競う「第 10 回国際地学オリンピック」が、2016 年、日本で初めて三重県で開催されます。

加えて、その他の地域においても豊かな自然環境が広がっています。特に、北勢地域には、鈴鹿山脈の森林、集落の周りに田畠やため池や林等を有する里山、木曽三川をはじめとした川の流れ、伊勢湾の海と干潟の環境があり、ときには伊勢湾台風など多大な被害を受けながらも木曽三川の治水・利水の歴史を重ねて水と共生をしながら、様々な生き物が住む森里川海の豊かな自然環境の恩恵を受けて生活してきました。これらの自然資源を将来にわたって持続的に利用するため、地域の人々が主体となって、ハマグリ等の自然資源管理を行っています。

このように、三重県には世界の課題に通じる環境や産業があるため、これらを視察して、環境・産業技術の観点、自然との共生の観点、地域資源を活用した地域ビジネスの観点等を学んでいただき、環境と持続可能な社会のあり方を議論していただくことを提案いたします。

(3) 討議に資する視察先

<環境・産業技術>

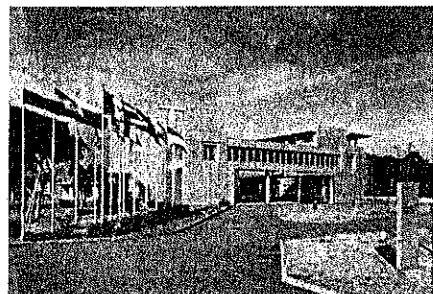
① 四日市公害と環境未来館（四日市市）

四日市公害の発生に至る経緯や被害、環境改善に向けた取組等について、分かりやすく豊富な映像や写真などで展示しています。四日市公害の発生以来、市民・企業・行政が一体となって取り組んだ環境改善や、産業発展と環境保全を両立するまちづくりについて、また、現在の環境先進都市かつ最先端技術都市に至るまでの歴史を学び、未来志向で環境問題について学ぶことができます。



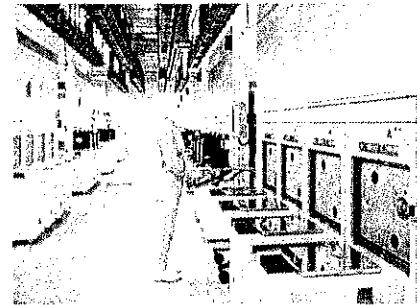
② 公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）（四日市市）

地球環境の保全と世界経済の健全な発展に寄与するため、我が国の環境保全システムを円滑に移転していく機関として、産・官・学の協力によって1990年に設立されました。これまで89ヶ国から約2,400名の研修生を受け入れています。我が国の大気汚染防止や水質汚濁防止等の環境保全技術の海外移転について学ぶことができます。



③ (株) 東芝 四日市工場（四日市市）

四日市工場は、世界有数の規模を有する、最先端のフラッシュメモリの研究・開発・生産拠点です。様々なデジタルプロダクトに組み込まれるNAND型フラッシュメモリは、四日市工場から世界に送り出されています。また、人類が直面する地球環境問題にも正面から取り組む「環境負荷低減を積極的に推進してい



る工場」でもあります。最先端の技術と環境への取組を見ることで、環境との調和を図りながら技術を発展させることを学ぶことができます。

※NAND型フラッシュメモリとは、・・・1984年、東芝が開発した次世代を担う新しいタイプの半導体メモリ。世界に先駆けて実用化を果たし、各種メモリカードやSSD、クラウドサービスのデータサーバ、産業機器などの応用機器に採用され、消去や書き込みの速度が速く大容量化に適しているため、世界標準のデバイスとなっています。2015年、更なる大容量化・高速化を目指した3次元フラッシュメモリの量産を開始しました。

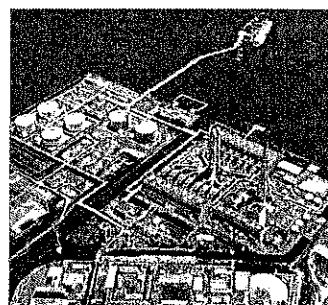
④ (株)マーク・コーポレーション(鈴鹿オートリサイクルセンター) (鈴鹿市)

車の街 鈴鹿市において、「環境面で次世代に負荷を与えない社会」を実現するため、使用済み自動車の100%リユース、リサイクルを行っています。また、三菱マテリアル(株)、(株)ホンダトレーディングと協力し、使用済みハイブリッド自動車からの希少金属(レアアース磁石)の回収技術の開発に向けた取組をしています。リユース、リサイクルの行程を見学し、資源の有効活用や循環型社会システムについて学ぶことができます。



⑤ 中部電力(株)川越火力発電所・川越電力館テラ46(川越町)

川越火力発電所は、燃料にLNG(液化天然ガス)を使用していますが、産出地で天然ガスを液化するときにガス中のちり、硫黄分などの不純物を取り除いているため、ばいじんや硫黄酸化物が発生しません。1号機・2号機の発電方式は、大容量機では世界初めて主蒸気圧力31.0Mpa、蒸気温度566°Cの超々臨界圧二段再熱方式を採用し熱効率46.4%を誇ります。3号機・4号機は、ガスタービン入口のガス温度を1,100°C級から1,300°C級に高くし、高温排気ガスを排熱回収ボイラで有効利用することにより、従来の発電方式に比べて高い、熱効率53.9%を誇ります。火力発電所や電力館を見学し、クリーンで効率的なエネルギー利用について学ぶことができます。



<自然との共生>

⑥ 御在所岳（菰野町）

鈴鹿国定公園を代表する山（標高1,212m）で、ロープウェイの支柱としては日本一の高さを誇る鉄塔を有する御在所ロープウェイが山頂に通じており、山頂周辺は園地となっています。大自然に包まれた一帯は、自然の宝庫となっており、そこに生育する貴重な動植物を観察することができます。また、山頂からは、北勢地域全域を見渡すことができ、森・里・川・海のつながりと、都市や工場地帯の様子を一望することができます。



<自然との共生 特に水との共生>

⑦ 赤須賀漁業協同組合（桑名市）

高度経済成長期に、埋め立て、地下水汲み上げによる地盤沈下等の影響で、多くの干潟が失われハマグリの水揚げが激減しました。そこで、漁業者が中心となって、稚貝の生産及び人口干潟への放流、漁獲規制等の資源管理に取り組み、ハマグリ等の漁獲量を復活させました。漁業者のお話を通じて、地域資源としてハマグリ等を持続的に利用するための生息環境管理と資源管理を学びます。



⑧ 輪中の郷（桑名市）

木曽・長良・揖斐の木曽三川が集まる輪中地帯は、過去、洪水の多発地帯でした。水の恩恵を受けながらも、洪水との闘いの歴史を重ね、自然と調和した街を築いてきました。洪水から集落や耕地を守るため、周囲を堤防で囲んだ輪中をテーマに、歴史・文化・産業を紹介している施設であり、水との共生について学びます。



<地域資源を活用した地域ビジネス>

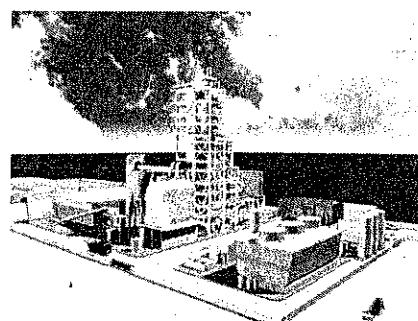
⑨ うれし野アグリ（株）（松阪市）

うれし野アグリ（株）は、工場の排熱・余剰蒸気を再利用する新しい生産技術、競争力強化・雇用創出等新しい地域貢献、野菜の流通に風穴をあける新しい消費を目指す、農家・地域・企業が手を結ぶ新しい農業の形です。地域山林の間伐材等の木質チップを利用したバイオマスボイラーを導入する企業（工場）の工場排熱・バイオマス蒸気を利用し、トマトを生産する国内最大級の植物工場を持ちます。農商工連携と地域資源を活かした再生可能エネルギーの利用による農商工連携ビジネスについて学びます。

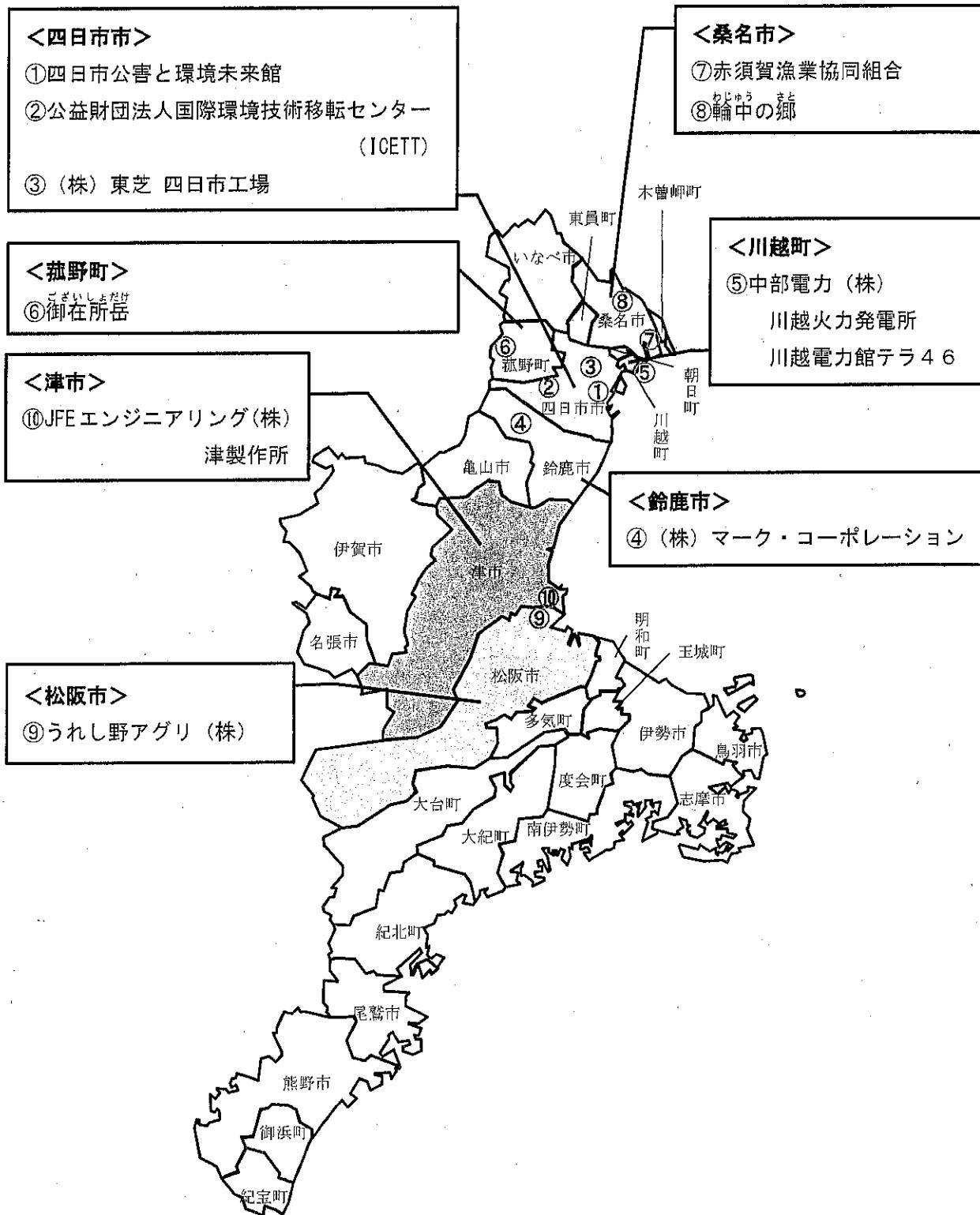


⑩ JFE エンジニアリング（株）津製作所（津市）

津市は、政府が指定する「バイオマス産業都市」の22地域（2014年11月時点）の1つに選ばれています。JFE エンジニアリング（株）津製作所では、地域資源の未利用間伐材等の木質チップ等を燃焼して発電する建設中のバイオマス発電所を見学します。
(2016年7月稼動予定 一般家庭約45,000世帯の年間電力使用量に相当する電力を発電予定)

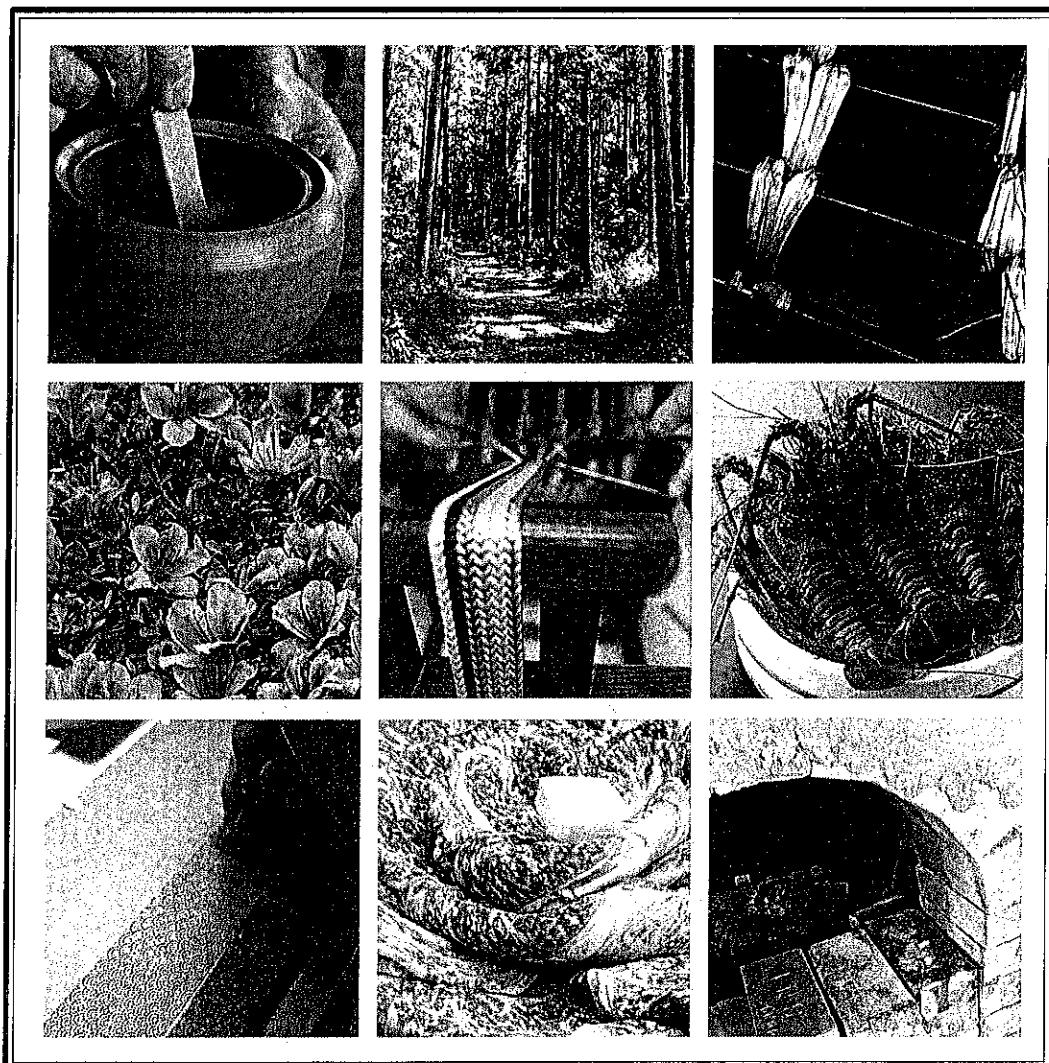


〈位置図〉





県産食材等の活用及び
首脳会議場等における
県産品・伝統工芸品の活用に係る
要 望 書



平成 27 年 10 月 9 日
伊勢志摩サミット三重県民会議
三 重 県



2016年の主要国首脳会議が伊勢志摩地域で開催されることを受け、県産食材等の活用及び首脳会議場等における県産品・伝統工芸品の活用について、以下のとおり要望します。

1 県産食材等について

三重県が誇る県産食材、加工食品、日本酒について、積極的に活用していただきたい。

2 首脳会議場等におけるしつらえに向けた県産品・伝統工芸品の活用について

- (1) 首脳会議場における円卓など、サミットに係る備品については、尾鷲ヒノキ等の三重県産材を活用していただきたい。
- (2) 首脳会議場における備品や食事の際の食器等については、三重県の伝統工芸品を活用していただきたい。
- (3) 首脳会議場等の装飾に使用される花き花木については、三重県の花き花木を活用していただきたい。

平成27年10月9日

伊勢志摩サミット三重県民会議会長

三 重 県 知 事

鈴 木 英 敬

1 食材等について

「御食国（みけつくに）」として古くから朝廷に海産物を献上してきた三重県は、豊富な食材に恵まれており、「食」の宝庫といえます。伊勢志摩サミットにおいては、首脳や配偶者、シェルパ、各国代表団、報道関係者など、世界中からお集まりいただいく多くの方々に、三重の「食」を堪能していただくことで日本の食文化に触れていただき、また、「食」を通じて、豊かな自然や人々の営みに思いを馳せていただきたいと考えています。

そこで、三重県が誇る県産食材、加工食品、日本酒について、リストにとりまとめましたので、ぜひとも積極的にご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

三重県産食材等推薦リストについて

(1) 食材（野菜、果物、畜産物、茶、海産物等の農林水産物）

県内29市町に照会し、市町から推薦のあった食材を市町推薦食材リストとしてとりまとめました。

あわせて、これまでに三重県がとりまとめてきた「みえイノベーション食材カタログ」と、「みえセレクション」（下記（2）参照）から食材を抜粋したリストを添付させていただきます。

豊かな自然の中で育まれた質の高い地元食材を、ぜひご活用ください。

(2) 加工食品（調味料、麺、漬物、餅菓子等の加工食品）

県内の特徴ある優れた产品を首都圏などに向け情報発信し、販路拡大を図ることを目的に、平成25年度より選定している「みえセレクション」に加え、今般、以下の食品を公募してとりまとめました。

これらの加工食品は、本県の食文化を象徴するものや、材料や製法へのこだわりや味、デザインなどに優れた特徴を持っているものですので、ぜひご活用ください。

・県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品

（製品に占める三重県産の原材料の重量割合が50パーセント以上のもの）

※酒税法に基づき県内の酒類製造者が製造する清酒は除く。

・三重県の歴史的背景に鑑み、1868年（江戸時代）以前から県内で製造・販売されている餅菓子

〔本県では、多くの餅菓子店が伊勢参宮街道や東海道沿いに営まれ、お伊勢参りの旅人や大名の参勤交代など、広く親しまれました。〕

（3）日本酒

全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が自信を持ってお奨めする日本酒をとりまとめました。

料理に合わせ、三重の日本酒をご活用いただくとともに、乾杯はぜひ、地元三重の日本酒で行っていただくよう、お願ひ申し上げます。

2 県産品・伝統工芸品について

(1) 尾鷲ヒノキ等の三重県産材について

三重の地は温暖な気候と豊富な降水量に恵まれ、古くからスギ、ヒノキを中心とした造林が進み豊かな森林が育まれてきました。三重で生産される木材は、高い密度で植栽し、間伐を繰り返すことにより、通常で年輪幅が細かく、強度もあって光沢にも富んでいます。

北海道洞爺湖サミットでは、首脳会議のシンボル的な備品である円卓に北海道産のイタヤカエデが活用され、九州沖縄サミットでも同様に沖縄県産のリュウキュウマツが活用されたと聞いているところです。また、現在、国際社会では、森林保全のため、適切に管理された森林から生産される木材を使用した木材製品や紙を使用すること（FSC認証を受けた木材製品や紙を使用すること）が求められています。

これらのことから、伊勢志摩サミットにおいても、ぜひ、尾鷲ヒノキ等の三重県産材を活用していただきたいと考えています。

また、円卓以外にも、首脳会議場や国際メディアセンターなど、様々な場面・空間づくりにおいて三重県産材をご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

(2) 三重県の伝統工芸品について

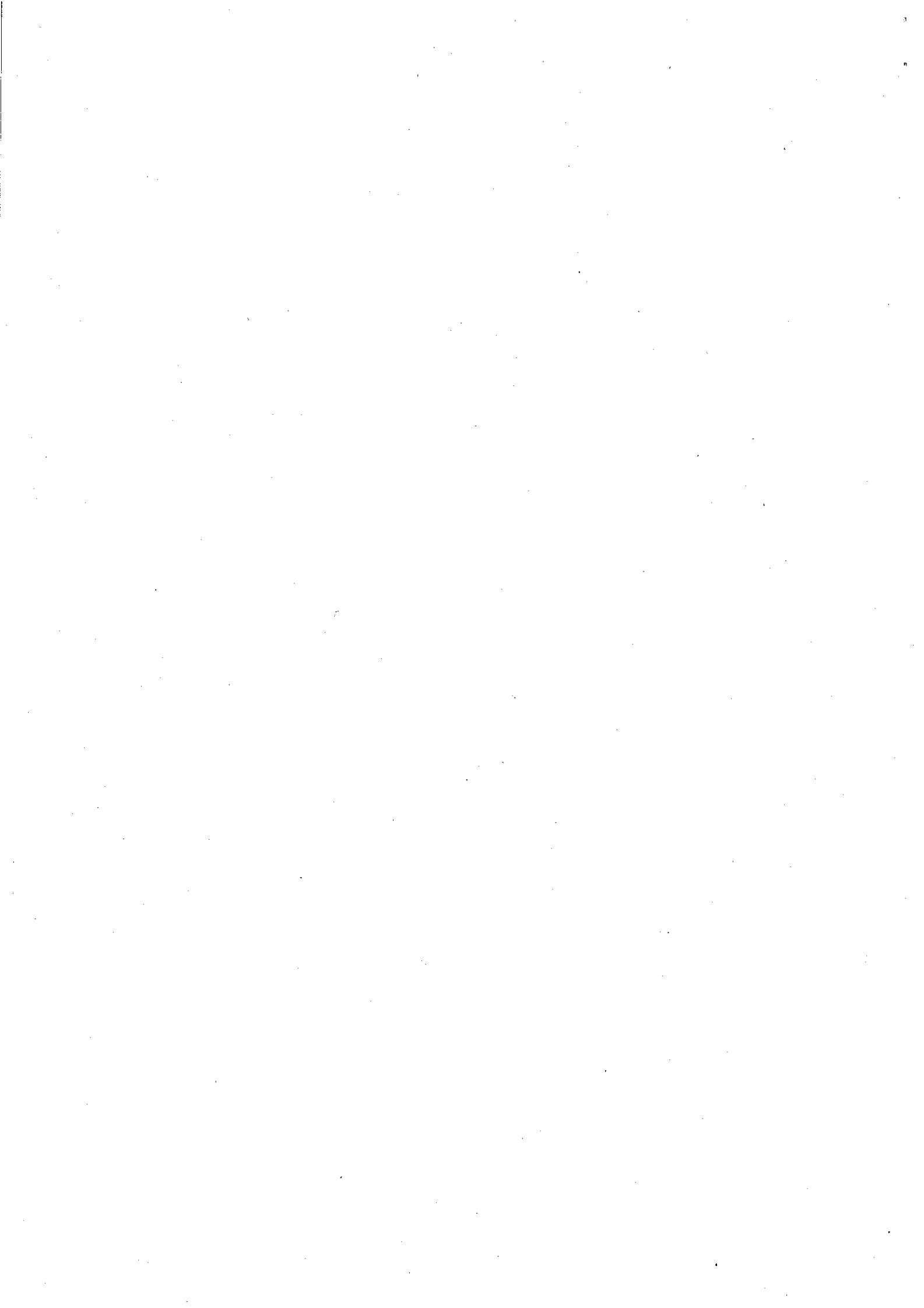
三重県には、豊かな自然や歴史文化に育まれながら、脈々と受け継がれてきた伝統工芸品が数多くあります。首脳会議場等において、三重が誇る伝統と匠の技を通じて、日本の伝統・文化に触れていただきたいと考えています。

なお、伝統工芸品については、器などそのまま活用いただけるものと、素材として取り入れていただけるものがあります。三重県が設置している首都圏営業拠点「三重テラス」における活用事例なども、ぜひ参考にしていただければ幸いです。

また、県内自治体の中には、乾杯条例を設置し、地元の日本酒を地元の伝統工芸品の器に注いで乾杯する習慣を広めるための取組を推進するよう努めることを、当該自治体の役割として規定しているところもあります。三重の日本酒で乾杯いただくこととあわせ、三重の伝統工芸品の器を使っていただきますよう、お願い申し上げます。

(3) 三重県の花き花木について

豊かな自然の中、三重県では長年培った栽培技術により、クオリティの高い美しい花き花木が数多く生産されています。地元三重の花き花木が醸し出す、安らぎや潤いを感じていただけけるよう、三重県産花き花木で首脳会議場や宿泊施設等を彩っていただきたいと考えています。



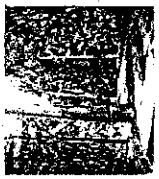
伊勢志摩サミットに係る三重県からの提案・要望について

各国首脳による記念植樹の提案

三重県

2016年の主要国首脳会議が「自然との共生」が再認識できる伊勢志摩地域で開催されることになりました。また、過去のサミット開催場所となつた沖縄や北海道では記念植樹が行われてきました。

本県においても、ご来県されるサミット参加各国首脳による記念植樹を実施したいと考えたとき、伊勢志摩サミット開催記念及び開催地としてのシンボルにしていきたいと考えており、その実施について提案します。



○樹木:「県の木」である「樟葉スギ」

配偶者プログラムの提案

三重県

伊勢志摩は、日本人の心の「ふるさと」として、伊勢神宮や海女文化といった日本の精神性、多様で豊かな伝統・文化、また、英虞湾など日本の原風景ともいえる美しい自然等を数多く有しています。配偶者の皆様方に三重を通じて日本を感じていただきたい内容を三重県として選定いただいた場所・実施していただきたいので、提案します。

- テーマ 「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- キーワード 「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

県産食材等、県産品及び伝統工芸品の活用の要望

伊勢志摩サミット三重県民会議 三重県

く県産食材等について>

「御食国(みけつくに)」として古くから朝廷に海産物を献上してきた三重県は、豊富な食材に恵まれております。「食」の宝庫といえます。伊勢志摩サミットにおいては、首脳や配偶者をはじめ、世界中からお集まりいたたくことに、三重の「食」を堪能していただきたいと考えています。

く県産品及び伝統工芸品について>

三重県会議場等におけるしつらえに向けたおもてなし用に、以下のとおり活用いたがりますよう、要望します。

- 首脳会議場における円卓など、サミットに係る備品
- 首脳会議場における備品
- 首脳会議場における備品
- 三重県の伝統工芸品
- 三重県の花き花木



伊勢えび

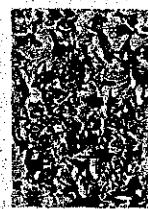
松阪牛



伊勢形紙



伊賀焼



さつき茶

協賛、応援、寄附の申込状況等について

平成27年10月13日

8月31日より開始した、協賛、応援、寄附の募集にかかる10月8日時点での申込状況は、下記のとおりです。

協賛	応援	寄附	
11件 うち登録6件	63件 うち登録48件	46件 122,038,538円	
		法人	個人
		23件 115,795,000円	23件 6,243,538円

協賛、応援の事業提案内容は、別添のとおりです。

協賛、応援申込状況

H27.10.8 時点

伊勢志摩サミットにかかる協賛、応援について、現時点での申込状況は、下記のとおりです。

- 〔備考〕・登録欄の「済」は登録済のもの、「未」は審査中のものです。
- ・公表欄の「○」は内容の公表に同意があるもの、「×」は公表を希望しないものです。

【協賛】

申請件数	11
うち登録件数	6

申込者一覧

番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
1	H27.8.28	三重トヨタ自動車株式会社	クリーンアップ運動へのごみ袋等提供他	済	○
2	H27.9.3	尾鷲名水株式会社	サミットの出席者、スタッフにミネラルウォーターを提供	済	○
3	H27.9.11	「小さな親切」運動三重県本部	ごみ袋3万枚(JT協賛)配布し小中学校、企業等とともに、県民会議と同一週に環境美化活動実施	済	○
4	H27.9.11	百五銀行「小さな親切」の会	百五銀行の行員3,000名がサミット開催の直前週に環境美化活動実施	済	○
5	H27.9.16	株式会社宝輪	HOWAビル津(県民会議事務局入居)の空いている立体駐車場を無償貸与	済	○
6	H27.9.18	株式会社アクアイグニス	県民会議が主催するイベント・各種レセプション等へ「伊勢海老パイ」を提供	済	○
7	H27.9.24	—	—	未	○
8	H27.9.25	—	—	未	○
9	H27.9.25	—	—	未	○
10	H27.9.25	—	—	未	○
11	H27.10.5	—	—	未	○
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

【応援】

申請件数	63
うち登録件数	48

申込者一覧

番号	受付日	提案者名	提案内容	登録	公表
1	H27.8.28	株式会社百五銀行	百五観光アカデミー開催	済	○
2	H27.8.28	堀口文宏の志摩っていこうぜ運営委員会	志摩の魅力を動画番組、SNS等で配信	済	○
3	H27.8.28	三重の大酒蔵市実行委員会	県内の酒蔵と四日市市飲食店のコラボイベント	済	○
4	H27.9.1	村林浩代ソプラノリサイタル実行委員会	リサイタルの売上の一部を県民会議へ寄附	済	○
5	H27.9.2	JAグループ三重 JA事業サポートセンター	「伊勢志摩サミット2016」ポスターの店頭掲示	済	○
6	H27.9.2	「名港水上芸術花火2015」開催委員会	名古屋港ガーデンふ頭でサミット記念花火大会	済	○
7	H27.9.2	イオンリテール株式会社	県内店舗で伊勢志摩サミットポスターの掲示	済	○
8	H27.9.2	マックスバリュ中部株式会社	県内店舗で伊勢志摩サミットポスターの掲示	済	○
9	H27.9.2	イオンリテール株式会社	関西圏店舗で「三重県フェア」開催	済	○
10	H27.9.2	三重信用金庫	「伊勢志摩サミット記念定期」を販売し利息の一部を寄附	済	○
11	H27.9.3	キリンビールマーケティング株式会社	記念デザイン肩ラベル品販売、売上1本につき1円を寄附	済	○
12	H27.9.3	三重県漁業協同組合連合会	伊勢志摩サミット開催PRのための看板設置	済	○
13	H27.9.4	一般社団法人三重県食品衛生協会	サミット成功に向け食中毒を発生させないセミナー開催	済	○
14	H27.9.4	—	—	未	○
15	H27.9.4	—	—	済	×
16	H27.9.4	—	—	済	×
17	H27.9.4	全国詩曲音楽連盟	サミットの記念曲(イメージソング)の制作	済	○
18	H27.9.9	エールアドエイジェンシー合同会社	北勢エリアの社員募集情報誌へのポスターの無料掲載	済	○
19	H27.9.9	—	—	済	×
20	H27.9.10	—	—	済	後日公表
21	H27.9.10	—	—	済	後日公表
22	H27.9.10	近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社	「伊勢志摩サミット2016」ポスターの店頭掲示	済	○
23	H27.9.11	株式会社第三銀行	伊勢志摩サミット開催記念定期を販売し、抽選で特産品等をプレゼント	済	○
24	H27.9.14	—	—	済	後日公表
25	H27.9.15	株式会社百五銀行	主要14ヶ店のロビーにWi-Fiを整備する	済	○
26	H27.9.16	株式会社宝輪	HOWAビル津(県民会議事務局入居)壁面にサミットポスター掲出	済	○
27	H27.9.17	三重交通グループホールディングス株式会社	サミットデザインの缶バッヂを作成し、グループ11社の社員が着用	済	○
28	H27.9.17	—	—	済	後日公表
29	H27.9.18	—	—	済	×
30	H27.9.18	一般社団法人日本アマチュア無線連盟 三重県支部	サミット開催記念のCall Signを取得後、国内海外のアマチュア無線局と交信し三重県をPR	済	○
31	H27.9.18	伊藤印刷株式会社	伊勢志摩サミット開催記念応援グッズ(缶バッジ・三重学彩・シール)を販売し、売上一部を寄附	済	○
32	H27.9.24	特定非営利活動法人ほがらか絵本畠	伊勢志摩サミットを機会に海外を身近に感じるため、絵本を使った勉強会やセミナーを実施	済	○
33	H27.9.24	日本ボイスカウト 伊賀第1団 カブ隊	伊勢志摩サミットに関する子ども向け学習会実施(テーマ:世界の国ぐに)	済	○
34	H27.9.25	まちづくり団体 楽笑(Raku-Sho)	志摩発の女性会議・伊勢志摩女子サミットG7(ガールズセブン)を開催	済	○
35	H27.9.25	株式会社百五ディーシーカード	会員向け「ご利用代金明細書」(毎月約8,000通)へ寄付金募集の案内を掲載	済	○
36	H27.9.28	株式会社第三銀行	本支店(特に県外店舗)ロビーに「伊勢志摩サミット2016」のポスターを掲示	済	○

37	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	特別番組「世界のリーダーたちが三重に」7/5放送(インターネットでの公開9/16~)	済	○
38	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	特別番組「県民みんなで盛り上げよう伊勢志摩サミット」8/21放送(インターネットでの公開10月予定)	済	○
39	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	伊勢志摩サミット特設ウェブサイトの開設	済	○
40	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	伊勢志摩サミットの話題を重点的に紹介する「伊勢志摩サミット応援ウイーク」の実施	済	○
41	H27.9.29	三重テレビ放送株式会社	三重テレビのスタジオに阜上サミット告知プレートを設置	済	○
42	H27.9.29	神風講社雅樂部	伊勢志摩サミット開催を雅樂演奏会のポスターに掲載し、会場内に横断幕を掲揚する。	済	○
43	H27.9.29	NTN株式会社	近鉄線路沿いの建屋壁面に横断幕2枚(伊勢志摩サミット、ジュニアサミット各1枚)を設置	済	○
44	H27.9.29	株式会社青葉	天然ミネラルウォーターのペットボトルに「伊勢志摩サミット」応援文字を貼付。売上の一部を寄附。	済	○
45	H27.9.29	近鉄グループホールディングス株式会社	近鉄各駅、近鉄GHD各社等で、ポスター(県民会議製作分および自主製作分)掲出など	済	○
46	H27.9.30	株式会社百五銀行	会員向け「ご利用代金明細書」(毎月約15,000通)へ寄付金募集の案内を掲載	済	○
47	H27.9.30	三重畜産有限会社	サミット応援商品の開発、販売で三重県産牛・豚の魅力をPR	済	○
48	H27.9.30	鳥羽志摩農業協同組合	鳥羽志摩地域の農産物を使用した「G7ランチプレート」の販売	済	○
49	H27.10.1	株式会社第三銀行	ホームページでサミット開催までの日数をカウントダウン	済	○
50	H27.10.1	—	—	未	○
51	H27.10.2	—	—	未	○
52	H27.10.2	—	—	未	○
53	H27.10.5	—	—	未	○
54	H27.10.5	—	—	未	○
55	H27.10.5	—	—	未	○
56	H27.10.5	—	—	未	○
57	H27.10.6	—	—	未	○
58	H27.10.7	—	—	未	○
59	H27.10.7	—	—	未	○
60	H27.10.7	—	—	未	○
61	H27.10.7	—	—	未	○
62	H27.10.8	—	—	未	○
63	H27.10.8	—	—	未	○
64					
65					
66					
67					
68					
69					
70					

伊勢志摩サミット・三重県

>文字サイズ変更: 小 中 大

職員派遣企業・団体一覧

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局では、伊勢志摩サミットの成功を目指し、官民一体となって、伊勢志摩サミットの受け入れ体制の確立と事業の推進に取り組んでいます。事務局の運営にあたっては、官公庁のみならず、多くの民間企業および団体から職員派遣のご協力をいただいています。

伊勢志摩サミット三重県民会議に職員を派遣いただいている企業・団体をご紹介いたします。

平成27年10月1日現在

企業・団体	19名
国	2名
市町	5名
三重県	35名
計	61名

【企業・団体】

イオンリテール株式会社	1名
株式会社NTTドコモ	1名
近鉄グループホールディングス株式会社	3名
JAグループ三重	2名
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1名
株式会社第三銀行	1名
中部電力株式会社	1名
株式会社電通	1名
西日本電信電話株式会社	1名
株式会社博報堂	1名
株式会社百五銀行	2名
マックスバリュ中部株式会社	1名
株式会社三重銀行	1名
三重交通グループホールディングス株式会社	2名

※五十音順で記載しております

【国】

経済産業省	1名
環境省	1名

【市町】

伊勢市	1名
鳥羽市	1名
志摩市	2名
南伊勢町	1名

【県】

三重県職員	33名
三重県警察職員	2名

* ページのトップへ戻る

伊勢志摩サミット三重県民会議会員等名簿

【会員：114団体】

順不同

選出区分	所属機関・団体名
産業・経済関係	三重県商工会議所連合会
	三重県商工会連合会
	三重県中小企業団体中央会
	三重県経営者協会
	三重県中小企業家同友会
	中部経済同友会三重地区
	日本労働組合総連合会 三重県連合会
	公益社団法人 日本青年会議所東海地区三重ブロック協議会
	三重県商店街振興組合連合会
	伊勢商工会議所
	鳥羽商工会議所
	志摩市商工会
	小俣町商工会
	南伊勢町商工会
	三重県農業協同組合中央会
	全国農業協同組合連合会三重県本部
	三重県漁業協同組合連合会
	三重県森林組合連合会
	三重県木材協同組合連合会
	三重県食品産業振興会
宿泊・観光関係	一般社団法人 三重県建設業協会
	公益社団法人 三重県緑化推進協会
	株式会社百五銀行
	株式会社三重銀行
	株式会社第三銀行
	公益社団法人 三重県観光連盟
	公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構
	志摩市観光協会
	公益社団法人 伊勢市観光協会

選出区分	所属機関・団体名
宿泊・観光関係	一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部
	特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
電気・通信関係	中部電力株式会社 三重支店
	西日本電信電話株式会社 三重支店
	株式会社NTTドコモ 東海支社
	KDDI株式会社 中部総支社
	ソフトバンクモバイル株式会社
交通・運輸・警備関係	近鉄グループホールディングス株式会社
	東海旅客鉄道株式会社
	伊勢鉄道株式会社
	三重交通グループホールディングス株式会社
	三重交通株式会社
	公益社団法人 三重県バス協会
	一般社団法人 三重県タクシー協会
	三重県レンタカー協会
	中日本高速道路株式会社名古屋支社
	中部国際空港利用促進協議会
	関西国際空港全体構想促進協議会
	三重県道路公社
	津エアポートライン株式会社
	三重県交通安全協会
	一般社団法人 三重県トラック協会
	中部国際空港株式会社
	一般社団法人 三重県警備業協会
教育関係	三重県小中学校長会
	三重県高等学校長協会
	三重県立特別支援学校長会
	国立大学法人 三重大学
	学校法人曉学園 四日市大学
	学校法人皇學館 皇學館大学
	学校法人享栄学園 鈴鹿大学・同短期大学部
	鈴鹿医療科学大学
	四日市看護医療大学
	公立大学法人 三重県立看護大学
	津市立三重短期大学
	学校法人高田学苑 高田短期大学
	独立行政法人国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校
	独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

選出区分	所属機関・団体名
教育関係	学校法人近畿大学 近畿大学工業高等専門学校
	三重県私学総連合会
	三重県PTA連合会
	三重県高等学校PTA連合会
	三重県特別支援学校PTA連絡協議会
	日本ボーイスカウト三重連盟
	一般社団法人 ガールスカウト三重県連盟
	三重県子ども会連合会
	三重県地域婦人団体連絡協議会
	三重県青年団協議会
環境・市民・文化・国際交流関係	三重県社会教育委員連絡協議会
	三重県ユネスコ連絡協議会
	公益財団法人 国際環境技術移転センター
	公益財団法人 三重県文化振興事業団
	公益財団法人 三重県国際交流財団
	公益財団法人 三重県体育協会
	一般財団法人 三重県老人クラブ連合会
	公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団
医療・衛生関係	三重県ボランティア連絡協議会
	三重県自治会連合会
	花の国づくり三重県協議会
	公益社団法人 三重県医師会
	公益財団法人 三重県看護協会
	公益社団法人 三重県歯科医師会
	一般社団法人 三重県薬剤師会
	一般社団法人 三重県病院協会
	日本赤十字社 三重県支部
	一般社団法人 三重県食品衛生協会
行政	公益社団法人 三重県栄養士会
	一般社団法人 三重県調理師連合会
	公益財団法人 三重県生活衛生営業指導センター
	志摩市
	伊勢市
	鳥羽市
	南伊勢町
	三重県市長会
	三重県町村会
	三重県

選出区分	所属機関・団体名
行政	三重県教育委員会
	三重県警察本部
	三重県市町教育委員会連絡協議会
	三重県市町教育長会

【特別顧問：10名】

所属機関・団体・役職名	氏名
衆議院議員	岡田 克也
衆議院議員	川崎 二郎
衆議院議員	島田 佳和
衆議院議員	田村 憲久
衆議院議員	中川 正春
衆議院議員	中川 康洋
衆議院議員	松田 直久
衆議院議員	三ツ矢 憲生
参議院議員	芝 博一
参議院議員	吉川 ゆうみ

【顧問：79名】

所属機関・団体・役職名	氏名
三重県議会副議長	中森 博文
三重県議會議員	青木 謙順
三重県議會議員	今井 智広
三重県議會議員	杉本 熊野
三重県議會議員	舟橋 裕幸
三重県議會議員	前田 剛志
三重県議會議員	前野 和美
三重県議會議員	石田 成生
三重県議會議員	稻垣 昭義
三重県議會議員	田中 智也
三重県議會議員	津田 健児
三重県議會議員	芳野 正英
三重県議會議員	山内 道明
三重県議會議員	奥野 英介
三重県議會議員	中川 正美
三重県議會議員	廣 耕太郎
三重県議會議員	後藤 健一
三重県議會議員	田中 祐治
三重県議會議員	野口 正
三重県議會議員	中瀬古 初美
三重県議會議員	倉本 崇弘
三重県議會議員	小島 智子
三重県議會議員	三谷 哲央
三重県議會議員	山本 勝

所属機関・団体・役職名	氏名
三重県議会議員	小林 正人
三重県議会議員	下野 幸助
三重県議会議員	彦坂 公之
三重県議会議員	藤田 宜三
三重県議会議員	北川 裕之
三重県議会議員	津村 衛
三重県議会議員	東 豊
三重県議会議員	長田 隆尚
三重県議会議員	中村 欣一郎
三重県議会議員	大久保 孝栄
三重県議会議員	藤根 正典
三重県議会議員	日沖 正信
三重県議会議員	水谷 隆
三重県議会議員	中嶋 年規
三重県議会議員	山本 教和
三重県議会議員	稻森 稔尚
三重県議会議員	木津 直樹
三重県議会議員	森野 真治
三重県議会議員	館 直人
三重県議会議員	服部 富男
三重県議会議員	西場 信行
三重県議会議員	濱井 初男
三重県議会議員	村林 聰
三重県議会議員	吉川 新
三重県市議会議長会会長（松阪市議会議長）	大平 勇
三重県町村議会議長会会長（朝日町議会議長）	飯田 徳昭
志摩市議会議長	井上 裕允
伊勢市議会議長	小山 敏
鳥羽市議会議長	浜口 一利
南伊勢町議会議長	上村 久仁
伊勢新聞社編集局長	綿貫 美希
朝日新聞社津総局長	鈴木 裕
毎日新聞社津支局長	庭田 学
中日新聞社三重総局長	阿部 和久
読売新聞社津支局長	梶田 大司
産経新聞社津支局長	櫻井 大輔
日本経済新聞社津支局長	岡本 憲明
中部経済新聞社三重支社長	杉山 康徳

所属機関・団体・役職名	氏名
一般社団法人 共同通信社津支局長	山田 史生
時事通信社津支局長	依田 直哉
日刊工業新聞社三重支局長	堀 信一
日本放送協会津放送局長	岸本 多万重
株式会社 C B C テレビ三重支社長	河邊 芳伸
東海ラジオ放送三重支局長	山田 英之
東海テレビ放送三重支社長	高木 優
三重テレビ放送代表取締役社長	長江 正
名古屋テレビ放送三重支社長	小島 淳
中京テレビ放送三重支局長	荒田 岩男
三重エフエム放送代表取締役社長	丹羽 勇
三重県ケーブルテレビ協議会会长	塩治 憲司
夕刊三重新聞社代表取締役社長	山下 至
三重新報社代表	岡原 一寿
吉野熊野新聞社代表取締役社長	谷川 醇太郎
いなべエフエム会長	
C T Y (シー・ティー・ワイ) 代表取締役社長	塩治 憲司

【会長：1名】

敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県（行政）関係	三重県知事	鈴木 英敬

【副会長：4名】

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
市町関係	志摩市長（三重県市長会会長）	大口 秀和
県議会	三重県議会議長	中村 進一
産業・経済関係	三重県商工会議所連合会会長	小林 長久
宿泊・観光関係	公益社団法人 三重県観光連盟会長	雲井 敬

【理事：20名以内】17名

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
産業・経済関係	三重県商工会連合会会長	藤田 正美
	三重県中小企業団体中央会会長	佐久間 裕之
	三重県農業協同組合中央会会長	奥野 長衛
	三重県漁業協同組合連合会代表理事会長	清水 清三
	三重県木材協同組合連合会理事長	黄瀬 稔
宿泊・観光関係	公益社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構会長	鈴木 健一
	三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長	木村 圭仁朗
	一般社団法人 全国旅行業協会 三重県支部長	小西 靖司
	近鉄グループホールディングス株式会社取締役社長	吉田 昌功
交通・運輸関係	三重交通グループホールディングス株式会社会社代表取締役社長	岡本 直之
	公益財団法人 三重県国際交流財団理事長	駒田 美弘
市民・文化・国際交流関係	三重県ボランティア連絡協議会会長	泰道 詩子
	三重県市長会副会長（龜山市長）	櫻井 義之
市町関係	三重県町村会会长（大紀町長）	谷口 友見
	伊勢市長	鈴木 健一
	鳥羽市長	木田 久主一
	南伊勢町長	小山 巧

【監事：2名】

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
経済・産業関係	三重県商工会連合会事務局長	遠藤 修一郎
県（行政）関係	三重県会計管理者兼出納局長	中川 弘巳

平成27年10月13日
開催支援課

伊勢志摩サミット宿泊予約センターについて

1 目的

サミット開催時に集中的に来県する関係者の宿泊先を、安定的かつ効率的に確保・提供するとともに、宿泊者及び宿泊施設に対する適切なサポートや三重県の観光振興につながる取組を行う。

2 取組内容

(1) センターの役割

伊勢志摩サミット三重県民会議が公認する宿泊予約センターとして、サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊希望者への円滑かつ適切な申込み、配宿、精算、情報提供などのサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う。

(2) 宿泊予約取扱対象者

各国代表団、日本政府関係者、警備関係者、消防関係者、医療関係者、報道関係者等

(3) センター概要

①開設日 平成27年8月24日（月）

②運営事業者 伊勢志摩サミットに係る宿泊手配等業務コンソーシアム

※株式会社JTB中部（代表）、近畿日本ツーリスト株式会社、
株式会社日本旅行の3社による共同事業体

③住 所 三重県津市羽所町375 百五・明治安田ビル5階

④電話番号 059-228-8450

④営業時間 平日9時30分から17時30分まで（土日祝は休業）

3 事業実施スケジュール

- ・8月31日～9月7日 宿泊施設向け説明会の開催
(伊勢市、志摩市、鳥羽市、津市で計10回)
- ・10月～宿泊希望者からの問い合わせ対応・調整
- ・12月～Web上の予約受付システムの立ち上げ
- ・2～4月 宿泊施設向け外国人おもてなしセミナーの開催

平成27年10月13日
開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる（想定：5月26日午後、27日午前）。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ：「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード：「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体に検討し実施する。

平成 27 年 10 月 13 日

事業推進課

ジュニアサミットについて

1 目的

ジュニアサミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 現状

ジュニアサミットは、国が主催するサミットの関連行事であり、開催について現時点では未定です。

8月5日、鈴木知事から、中山泰秀外務副大臣に要望書を渡し、伊勢志摩サミットにあわせ、本県でのジュニアサミット開催を強く要望しました。

また、9月17日、伊勢志摩サミット推進局長から、外務省大臣官房人物交流室長に開催提案書をお渡しし、本県でのジュニアサミット開催に向けて、ぜひ採用いただくよう要望しました。提案書の主な内容は以下のとおりです。

- (1) 開催日程については、集中討議の前の討議に資する視察や県内分散型の体験・交流プランを含む9日間とすること。
- (2) 討議については、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をテーマとし、環境保全と経済成長を両立し、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について議論いただきたいこと。
- (3) 討議前に、四日市公害と環境未来館や(株)東芝四日市工場、(株)マーク・ゴーポレーション、輪中の郷、うれし野アグリ(株)、JFEエンジニアリング(株)津製作所など三重県ならではの討議テーマに関する視察を行っていただき、①環境・産業技術、②自然との共生、③地域資源を活用した地域ビジネスの観点等を学んでいただき、実りある議論をしていただきたいこと。

3 取組方針

- (1) 本県での開催及び開催地が決定した際には、県内各地分散型の三重県ならではの体験・交流プランについて、改めて提案を行っていきます。
- (2) 開催日程を通して、県内高校生等が参加者と交流できる機会を可能な限り設けられるよう、外務省と協議します。

【開催日程（案）】（9日間）

- | | |
|-------|--|
| 1日目 | ジュニアサミット参加者 三重県へ到着 |
| 2日目 | 開会式及び歓迎行事・視察等（開催地域周辺） |
| 3日目 | <u>討議に資する視察（県内高校生等も参加）</u> |
| 4～6日目 | 集中討議（夜は地元自治体を中心に歓迎・交流行事等を予定） |
| 7日目 | <u>県内分散型体験・交流プラン、閉会式</u>
＜県内高校生等との交流＞ |
| 8日目 | 東京へ移動、総理への成果文書提出 |
| 9日目 | 帰国 |
- ※下線部が県民会議事業

平成 27 年 10 月 13 日

事業推進課

シンボルマークの作成について

1 目的

国によるロゴマークの決定は平成 28 年 1 月以降と見込まれています。

国の決定に先んじて、県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民ができるだけ早期に、かつ自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで開催機運の醸成を図ります。

また、選定の考え方自体を県民会議の活動方針の象徴とし、県内外に強いメッセージを伝えていきます。

2 作成方法

(1) 作成方針

シンボルマーク作成のプロセス自体に県民会議からのメッセージを込め、県内外に発信しました。

① 近藤敦也氏に作成を依頼（平成 27 年 8 月 21 日）

近藤氏は北勢きらら学園在校時の作品が平成 20 年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用され、その後、筋ジストロフィーという難病を抱えながらも、夢であったグラフィックデザインの仕事に従事され、現在に至るまで継続的にデザインに関わっておられます。

同氏にシンボルマークを作成いただくことで、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信します。

② シンボルマークの県民投票（平成 27 年 9 月 25 日～10 月 1 日）

県民会議の基本的な考え方である「さまざまな県民が準備段階から事業の企画に携わり、実施して、サミットに参画する」ということを実現するため、近藤氏に作成いただくシンボルマーク数案を、県民投票へかける機会を設けました。

※ 投票総数 3, 577 票

③ シンボルマークの県民会議会長、副会長、理事による投票（平成 27 年 10 月 2 日～10 月 5 日）

県民投票の結果、上位 2 案に対して県民会議会長、副会長、理事による最終投票を実施しました。

④ シンボルマークの決定（平成 27 年 10 月 13 日）

3 作成後の展開

(1) 県民会議としての展開

バッジ、名刺、広報用資料、ポスター、封筒、懸垂幕等幅広く展開します。

(2) 協賛事業としての展開

県内外の企業・団体・個人による応援事業や企業・団体からの協賛の枠組みを活用してシンボルマークを活用頂くことで、広く展開します。

平成 27 年 10 月 13 日

事業推進課

第1回伊勢志摩サミットフォーラムの開催結果について

1 日時 平成 27 年 9 月 5 日 (土) 14:00~16:15 (開場 13:00)

2 場所 志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール

3 内容

(1) 挨拶 鈴木三重県知事、大口志摩市長

ビデオメッセージ 安倍内閣総理大臣

(2) 講演「伊勢志摩サミットに期待すること」

講師 滝崎成樹氏 (外務省大臣官房伊勢志摩サミット準備事務局長)

概要 サミットの概要や、三重県の情報発信・県民活動に対する期待についてご講演いただきました。国際メディアセンター及び三重県情報館(仮称)を活用して三重県を情報発信したり、ジュニアサミットの開催が決定すれば、小中高生が世界に目を向ける絶好の機会となるなどのお話をいただきました。

(3) トークセッション

スピーカー 山谷吉宏氏 (北海道副知事)

ロビン・ハーディング氏 (フィナンシャルタイムズ東京支局長)

江崎貴久氏 (海島遊民くらぶ代表)

鈴木三重県知事

概要 3つのテーマ(サミット開催地から学ぶ、伊勢志摩の魅力とその発信、県民総参加への取組)に沿って、北海道洞爺湖サミットにおける住民参加の事例や、記者の目から見て一目で日本・三重県とわかる写真の重要性など、貴重な発言や提言をいただきました。

4 参加者

376名

うち一般参加者 300名 (満員)

うち報道・来賓・関係者等 76名

5 アンケート結果

(1) 一般参加者 300名中、160名から回答 (回答率 53.3%)

(2) 伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町からの参加者

51.0%

(3) フォーラムの内容について

「大変良かった」、「良かった」 … 99.3%

(4) 「伊勢志摩サミット」への关心や、おもてなしへの参加意欲が深まったか、おもてなしへの参加のきっかけになったかについて

「大変そう思う」、「そう思う」 … 95.8%

(5) その他、主な意見

・経験者や専門家からの話やアドバイスは非常に参考になった

・具体的な話なので非常にわかりやすく、不安が少し解消された

・どのように参画していくのかを考えさせられた など

6 今後に向けて

サミット開催までに、2回のフォーラム開催を予定しています。

参考資料 2-6

平成27年10月13日
開催支援課

県産食材等の利用促進に向けた取組について

1 目的

伊勢志摩サミット開催を契機とし、質の高い県産食材等のPRを行うことで、需要拡大及び販売促進につなげていく。

2 基本的な考え方

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案していく。

3 取組状況

以下のとおりリストをとりまとめ、10月9日（金）に、知事から外務省に対し、積極的に県産食材等を活用されるよう要望を行った。

- ・食 材：各市町から提出された推薦食材を集約してリストを作成。
- ・加工品：県内に主たる事業所がある事業者が製造又は加工した食品や、江戸時代以前から県内で製造・販売されている餅菓子について公募を行い、みえセレクション選定品を含め、審査会を経てリストを作成。
- ・日本酒：関係機関と調整のうえ、全国新酒鑑評会で受賞された日本酒をはじめ、三重県に存する蔵元が奨める日本酒をとりまとめリストを作成。

4 今後の進め方

引き続き、国に対し県産食材等の活用を働きかけるとともに、関係ホテル等に対しても積極的に提案していく。

平成27年10月13日

開催支援課

弁当供給体制の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供するための体制を整備し、関係者用の受注窓口を設置する。

2 取組内容

(1) 業務内容

- ・弁当の受注、製造、配送及び空容器の回収
- ・県産食材の活用及びPR

(2) 取扱対象者

警備関係者、消防関係者、医療関係者、現地スタッフ等を想定

3 取組方針

(1) 事業者の選定

企画提案コンペを実施し、事業者を選定する。

(2) 事業者の選定方針

- ・弁当の製造・配達能力
大量の食事を継続して供給できる体制を整える。
- ・食品衛生対策
食中毒の防止など、安全で安心な食事の供給体制を整える。
- ・環境への配慮
ゴミの減量化やCO₂の削減に努めるなど、環境への負荷を小さくする。
- ・県産食材の活用
県産食材の活用、地域に根差したメニューの採用など、本県の魅力の発信につなげる。

4 今後のスケジュール

平成27年10月

企画提案コンペの公募開始

11月～12月

事業者の選定

1月

弁当受注窓口の設置

平成27年10月13日

事業推進課

クリーンアップ活動（環境美化・清掃活動）について

1 目的

サミット開催にあたっては、各国関係者はもとより、多くの報道関係者等が訪れる予想されます。これらの来訪者により快適な滞在環境を提供し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わり、機運醸成や参加意識の向上をめざします。

2 事業の概要

県民会議や県、市町及び各団体・企業等の多様な取組を生かしながら、県民が一体となって、開催地周辺のみならず、全県的にクリーンアップ活動を、協賛、応援事業の枠組も活用して展開します。

3 取組方針

- (1) 市町や自治会、関係団体・企業の実施しているクリーンアップ活動等を生かし、全県的な取組として展開します。
- (2) 県民参加の機運醸成のため、キックオフイベント等を実施することで一体感と発信力を高めていきます。

4 今後の進め方

(1) 関係者の協力体制

県民会議の体制や市町へ市町連絡調整会議等を活用し、自治会等の各種地域団体も含めた協力体制を構築していきます。

(2) 協賛、応援事業の活用

協賛、応援事業の枠組を活用し、クリーンアップ活動や物品等の提供により、企業・団体の協力を集結していきます。

例：企業や団体によるクリーンアップ運動の協賛、応援事業の登録

各種スポーツ大会や地域のイベント・祭等での10分間クリーンアップの呼び掛け

クリーンアップ活動への物品等の協賛 等

(3) キックオフイベントの展開

市町や関係団体等、一人でも多くの県民がクリーンアップ活動を行う日をキックオフイベント設定し、機運の醸成や一体感の構築を図っていきます。

なお、記念品等には協賛・応援事業や寄附金等も活用し、県民の力をあわせた活動となるよう取り組んでいきます。

平成27年10月13日

事業推進課

花いっぱいおもてなし運動について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催にあたり、三重県を訪れる方々を、おもてなしの心と美しい花々で歓迎するため、「花いっぱいおもてなし運動」の取組を実施します。

2 事業概要

「花いっぱいおもてなし運動」は、三重県を訪れる方々を花でおもてなしをする取組であり、サミット開催地の伊勢志摩地域を中心に、全県的に展開します。また、この機会を利用して、三重県産の花き花木をPRし、魅力を発信します。

3 取組方針

- (1) 一人でも多くの県民の方々に参加していただけるよう、市町や関係団体等と協力しながら、全県的な取組として展開します。
- (2) サミット本番前にキックオフセレモニーを開催し、サミットの成功と歓迎機運の醸成及び県民参加意識の向上を図ります。
- (3) 三重県産の花き花木を積極的に使用し、広く产地の情報を発信します。

4 今後の進め方

(1) 関係機関との協議

事業の実施にあたっては、警備実施上の支障とならないよう、警察などの関係機関と十分に協議を行います。

(2) 全県的な取組

①市町庁舎における飾花

各市町の庁舎内に花き花木を飾り、庁舎を訪れる地元住民の方々にサミット開催が近づいていることを実感していただきます。

②各市町でのプランター設置

各市町に花、プランター、培養土等の必要資材を配布し、各自治体内に設置します。

※各市町独自で実施されている花いっぱい運動と連携して事業展開を行います。

(3) 協賛事業・応援事業の活用

企業や団体に事業への登録を行っていただき、物品提供や花の飾り付け等でご協力いただきます。

例) サミット開催の影響で注目される場所、人が集まりやすい場所での飾り付け
→宿泊施設、商業施設、電車駅構内、高速道路SA・PA、フェリー乗場等

(4) キックオフイベントの開催

サミット本番前に、県内一斉に花の飾り付けを行うキックオフイベントを開催し、歓迎機運や参加意識の向上を図ります。また、物品や記念品等は協賛事業・応援事業、寄付金等を活用し、より多くの県民に参加していただけるよう取り組んでいきます。

三重県の花きカレンダー

○:出荷／鑑賞時期 ●:鑑賞時期

鉢花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シクラメン	●	●	●								○	○
ハイドランジア				○	○	●	●					
セントポーリア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポインセチア	●											
サイナリア	●	●	●	●	●							○
ブリムラ・ポリアンサ	●	●	●	●	●							○
ブリムラ・マラコイデス	●	●										○
ブリムラ・ジュリアン	●	●	●	●	●							○
シャクナゲ	○	○	●	●	●			○	○	○	○	○
ニューギニア				○	○	●	●	●	●	●	●	
インパチエンス												
カンパニユラ				○	●	●	●					
ベリクラサム		○	●	●								
クロサンドラ				○	●	●	●	○				
サルスペリ								○				
ブーゲンビレア					○	○	●	●	●			
ミニバラ	●	●	●	●	●			●				
ペラルゴニウム			○	●	●							

洋らん

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シンビジューム	●	●	●	●								
コチョウジン	●	●	●	●	●				○	○	○	
デンドロビューム			○	○	●	●						
アングロカスティ	○	○	○	○	○	○	○					
パフオペティラム	●	●	●							○	○	

観葉植物

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ヘデラ												
ボトス												
アンスリウム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
スパティフィラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
グズマニア												
ディジコセカ												
バーセナシッサス												
ミラ												
オフィオボゴン												
モンステラ												
カラジウム				○	○	●	●					
ソレイロリア												
ツデーシダ												
トライデスカンティア	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
ディフェンバキア	●	●	●	○	○	○	●	●	●	●	●	●
シェフレラ	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	○	○
ドラセナ類	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●
エクメア					○	○	○	○	○	●	●	
フィロデンドロン	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●
エアプランツ												

花苗

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ガーデンシクラメン	●	●	●	●	●					○	○	○
パンジー	○	○	○	○	○	●	●			○	○	○
ピオラ	○	○	○	○	○	●	●					
ハナショウブ					○	●	●					
ゼラニウム	○	○	○	○	●	●	●	●	●			
ハボタン	●	●	●									○
エボルブルス					○	●	●	●	●	●	●	
ニチニチソウ				○	●	●	●	●	●	●		
キンギョソウ	●	●	○	○	○	●				○	○	○
サルビア				○	○	○	●	●	●	●	●	
マリーゴールド		○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	
ポーチュラカ				○	○	○	●	●	●	●	●	
ペチュニア		○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	
バーベナ			○	○	○	○	○	○	○	●		
ベゴニア				○	○	○	○	○	○	●		
トレニア				○	○	○	●	●	●	●		
コリウス					○	○	●	●	●	●		

切り花

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
バラ												
キク												
トルコギキョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ガーベラ											○	○
ストック	○	○	○	○	○	○					○	○
スイートピー	○	○	○	○	○	○					○	
カーネーション	○	○	○	○	○	○				○	○	○
グラジオラス					○	○	○	○	○			

平成 27 年 10 月 13 日

事業推進課

ホームページ・SNSのリニューアル及び運営について

1 目的

現存ホームページ（以下、HP）をリニューアルすることにより、県民会議の取り組む事業、住民に影響を与える事象に関する情報、国内外から来県される方のための情報（宿泊予約案内、アクセス 等）をタイムリーにわかりやすく発信します。

また、既に運用している SNS（Facebook ページ及び Twitter）についても、HP の運営・管理と併せて運用を事業者へ委託することで、より効果的な情報発信や炎上対策等のセキュリティ強化を図ります。

2 事業の概要

HP や SNS を活用することで、県民会議の取組や三重の魅力を幅広く発信していきます。

なお、HP のリニューアル及び HP・SNS の維持管理運営については、バナー広告等で賄うことを前提に、受託事業者は業務に係る経費をすべて負担することを条件に、当該 HP における広告収入を経費に充当できる仕組としてていきます。

3 取組方針

(1) HP

「国内在住の方」及び「海外からサミット取材に訪れるプレス」を対象に発信していくため、当該 HP は日・英の 2 カ国語対応を基本とします。

- ・ 国内向けには、県民会議の取組、協賛・連携・寄附事業の周知と依頼、各種規制情報、宿泊予約案内、三重県概要等を発信
- ・ 海外プレス向けには、三重県での滞在に関する情報（病院・警察、両替可能場所、宿泊予約案内等）、県民会議の一部の取組等を発信

※コンテンツにあわせ、一部は多言語化を予定

(2) SNS

県内でサミットに関心のある方、サミットを契機に地元を盛り上げる意欲のある方や、県外でサミットに関心のある方、三重にゆかりや関心のある方をファンとして取り込むような発信をします。

4 今後の進め方

企画提案コンペを実施し、年内をめどにリニューアルする予定です。

平成27年10月13日

事業推進課

伊勢志摩サミット三重県民会議公式ポスター第3弾以降の制作について

1 目的

三重県で開催される主要国首脳会議の成功に向け、多くの方に伊勢志摩サミットをPRするため第1弾ポスターを制作したが、第2弾から第5弾までのポスターを作成することで、サミット開催の告知や「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」への県民の意識の醸成を図ることを目的とする。

2 ポスターシリーズの基本構成

開催機運と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする。

ポスターは、第2弾から第4弾ポスターの掲出時期が半年と短いことから、複数点数では県民会議のポスターとして認知効果が薄まることが懸念されるため、各弾一種類とする。

(1) 【第1弾・7月～掲出】※掲出済

起：サミットが伊勢志摩で開催されることをPRし、期待感を醸成

- ・サミット予定地の賢島とリアス式海岸の写真を活用し、伊勢志摩サミット2016（開催決定）を県内外へ発信
- ・豊かな自然と美しいリアス式海岸を映しだす写真で伊勢志摩をPR

(2) 【第2弾・10月～掲出】

承：県民会議の象徴となるシンボルマーク決定告知

- ・シンボルマーク作成者へポスターも同時に作成依頼
- ・第2回県民会議総会でシンボルマークと同時に発表
- ・シンボルマークと作成に込めた思いを広く県内外へ発信

(3) 【第3弾・12月～掲出予定】及び【第4弾・4月～掲出予定】

転：ポスターの公募

- ・第3弾、第4弾のポスターも広く一般から公募する。
- ・第3弾のテーマを「サミット開催に向けてのおもてなしの心」として、「おもてなし」や「歓迎」という伝わりにくいテーマをポスター表現することで県民の意識啓発を目指す。
- ・ポスターは県民会議会長及び選考委員で決定
- ・ポスターの印刷や配布については、企業等の協賛を募集

サミット終了後・・・

(4) 【第5弾・5月28日～掲出予定】

結：サミット終了が新たなスタート

- ・明日へつなぐをテーマに、アフターサミットへ向けてメッセージを記載
- ・サミット開催までに実施してきた県民参加事業を写真を中心に構成

平成27年10月13日
事業推進課

カウントダウンボード、ノベルティを活用したPR展開

1 目的

200日前ウィーク（11月5日～11月11日）に、県内各所にカウントダウンボードを展開することで、歓迎機運の盛り上げを図る。また、伊勢志摩サミットの開催を幅広く周知するため、シンボルマークを活用した各種PRツールを作成し、節目イベントや様々な会議等において、積極的に活用する。

2 取組方針

(1) カウントダウンボードの設置

広報全体計画の200日前の広報テーマが、県内への伊勢志摩サミットの認知促進の時期であることから、県内を中心に設置して、県民の機運醸成を深めるとともに以後の節目イベントへの期待感を高める。

(2) 各種PRツールの作成

手提袋、クリアファイル等の汎用品ツールを作成するとともに、子ども、主婦、報道陣などターゲットを明確にしたノベルティも作成して様々な場面に応じて配布できる各種PRツールを作成していく。

3 今後の展開

(1) カウントダウンボードの展開

広報全体計画に基づき、全国的な話題性の向上と興味喚起のため、150日前ウィークに併せて県外へ展開し、設置に取り組む。

(2) 各種PRツールの展開

節目イベントや関係閣僚会合や三重テラス等において、各種PRツールを用いて幅広く周知を行う。また、集客力及びPR効果の高いイベントには、県民会議として出展等を行い情報発信を行っていく。

平成27年10月13日
事業推進課

プレス等を活用した情報発信の展開について

1 目的

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県の魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透を図るとともに、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげます。

2 取組方針

- (1) 県・市町の関係部局とも連携を図りながら、メディアの発信先や特性に応じてテーマ設定や訪問先などのコンテンツ選定を行い、三重の誇る食、文化・伝統、自然や産業技術等を効果的に発信できるように努めます。
- (2) 県内各地域の情報が国内外に広く発信できるよう、取材エリアの選定を工夫します。
- (3) 県民会議主催の事業だけでなく、外務省等の国際機関や県の各部局、市町、各種団体等の行うメディア関連の事業に対し、コースやテーマ等の提案・調整を行い、これらの事業一タールで効果的なメディア発信を行う構成とします。
- (4) コースやテーマ設定の際には、多様な暮らしを営む県民（生産者、経営者、子ども、女性、高齢者等）が、できるだけ取材されるよう努めます。

3 事業の概要

単にプレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催することでプレス等との関係を構築し、より効果的な情報発信に努めます。

(1) プレスツアー、ファムトリップ等

各種プレスツアーやファムトリップ等については、地域性、テーマ性も考慮しつつ県民会議からコース等の積極的な提案を行います。

①県民会議主催プレスツアー（1泊2日）（3回程度）

②外務省等主催のプレスツアー（複数回）

③海外メディアやエージェントのファムトリップ（複数回）など

(2) プレスツアーの参加に向けた各種行事

プレスツアーを開催するに当たり、プレス等との関係性を構築しつつ、ツアーハウスへの参加を呼び掛けるイベントを開催します。

①海外プレス向けブリーフィング…外国報道機関を対象としたブリーフィングを開催します。

②メディア交流会等…首都圏等でメディア等を対象にした各種情報発信の機会を活用します。

4 今後の進め方

県民会議主催のプレスツアーについては、第1回を12月上旬に実施する方向で調整します。

外務省等主催のプレスツアーについては、各部局や市町、関係団体と調整し、県内の行程について県民会議から積極的に提案を行います。

海外プレス向けブリーフィングについては、年内の開催に向け関係機関と調整を行います。

平成 27 年 10 月 13 日

事業推進課

三重県情報館（仮称）について

1 目的

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の魅力を国内外に発信するための拠点として三重県情報館（仮称）を設置します。

■ねらい

国内外での知名度向上により、三重県へのインバウンド及び国内観光者の増加、県産品の輸出増加及び国内での需要拡大など三重の活性化につなげます。

2 事業の概要

■期間：国際メディアセンターと同期間

■内容

(1)取組方針

基本コンセプトに基づき、日本の中の「地方」の代表として三重県の魅力を課題も含め発信します。また、国との連携を密にし、国の広報スペースにおいて、オールジャパンとしての取組み（東京オリンピック・パラリンピック、東日本大震災からの復興、関係閣僚会議など）や東海及び中部地方の発信を要望するとともに、三重県情報館（仮称）の中でも連動するなど、国の広報内容と調和のとれた展開をめざします。

①五感を刺激するために可能な限り、実際に触れたりできる「実物」を展示するとともに、実演・体験なども含めた PR を行います。（例：試食、忍者ショー等）

②情報館が、国際メディアセンターを訪れる全ての報道関係者が通る動線上に配置されるよう国に強く要望していきます。

③優雅できめ細かなおもてなしを行います。（例：松阪木綿の着物を着た通訳者による説明、四日市萬古焼急須での伊勢茶ふるまい、三重県らしい記念品プレゼント、伊勢のバラによる装飾等など）

④可能な限り 29 市町の情報を発信します。

(2)ブース構成イメージ（テーマで構成した場合の例）

①三重の『食』…海・山・平野の豊かな三重の食材・加工品（菓子もち等）・飲料等の展示・試食。（食材の提供は素材を生かした調理を基本とする）

②三重の『技』…日本の製造業の縮図としての技術のショールームを設置。MR J の尾翼や超小型モビリティなど本物の展示を中心に、三重ならではの水素エネルギーへの取組みや、実演も含めた伊勢型紙等の郷土の技術を紹介。

③三重の『姿』…三重独自の文化・歴史、変化に富んだ豊かな自然などを紹介。1300年にわたる式年遷宮の歴史を持つ伊勢神宮や、自然との共生を願う海女漁の思想などのストーリー性のあるコンテンツを紹介。

3. 今後の進め方（案）

発信コンテンツは、基本コンセプトが固まり次第、各市町及び県各部局とも調整のうえ、選定委員会等を経て決定する予定です。

平成27年10月13日

事業推進課

三重県情報誌及びプレス用ハンドブックの作成について

1 目的

伊勢志摩サミット開催に向けて、国内外報道関係者およびG7各国代表団等に、三重県の情報等を提供することで、三重県への理解を深めていただくとともにサミット開催に対する報道活動をサポートする地域情報も提供し、記事等を通じた内外への情報発信を促進します。

2 取組方針

- (1) 「三重県人」にフォーカスしたプロローグ版三重県情報誌と三重県の多彩な魅力や情報をわかりやすく掲載した三重県情報誌を作成配布することで三重県に対して関心を持っていただきプレスツアー等への参加など来訪意欲の向上に繋げる。また、報道活動をサポートするプレス用ハンドブックを作成し国内外報道関係者等が必要な情報を発信することをサポートします。
- (2) 国内外報道関係者等へ効果的に三重県の情報を発信するため、既存のパンフレットも活用したプレスキットを作成して配布します。

3 事業の概要

(1) 三重県情報誌の発行

伝統と革新を兼ね備えた三重県が誇る歴史、文化、伝統、食、先端技術を「三重県人」にフォーカスして紹介するプロローグ版三重県情報誌と三重県の多彩な魅力の情報と三重県の沿革、G7各国と三重県との関係などの情報が一体となった三重県情報誌を作成し、レセプションやプレスツアー等の機会を活用して国内外報道関係者等に配布することで、三重県への理解を深めていただくとともに、国内外のメディアに取材や記事化等のツールとして活用できるようにしていきます。

(2) プレス用サミットハンドブックの発行

県内マップ、交通案内、食事、観光、お土産情報など、サミット開催期と開催後に国内外報道関係者等の県内移動、滞在、取材活動、県内観光をスムーズに行える情報を掲載し、記者等の取材をサポートします。

4 今後の進め方について

- ・関係部局等と連携し、既存のパンフレット等とあわせて効果的な掲載内容の選定を行っていきます。
- ・プレスツアー、ブリーフィング等で情報誌を配布できるよう準備を進めます。
- ・メディアの種類や国にあわせて、ターゲットに最も効果的なプレスキットとなるように準備していきます。
- ・伊勢志摩サミット県民会議のホームページに情報誌の内容を掲載することで、県外や海外に向けて発信します。

平成27年10月13日
事業推進課

多様な主体における国際理解・国際交流事業について

1 目的

サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供します。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとなることをめざします。

2 事業の概要

学校や市町、民間企業・団体等の多様な主体が、県及び市町教育委員会や関係団体等と連携し、国際理解・国際交流につながるよう、次の取組等に対する支援を行います。

なお、当事業の実施については、平成28年9月28日に企画提案コンペを実施し、事業者の選定を行いました（事業者：公益財団法人三重県国際交流財団）。

(1) 児童・生徒を対象とした取組

- ・ 県内各地の学校における参加各国やサミットのテーマについて学ぶ授業や交流事業等の実施

(2) 広く県民を対象とした取組

- ・ 生涯学習講座等における各国料理教室や異文化交流教室の開催
- ・ 各種イベント等での国際理解・国際交流事業の展開
- ・ 様々なパネル展示等による参加各国紹介 等

3 取組方針

- (1) 学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体による取組が実施されるよう働きかけを行い、一人でも多くの県民がサミット参加国や多文化に関心を持てるよう、全県的な取組とします。
- (2) 取組情報等を報道に資料提供することで、パブリシティによる情報発信を行うとともに、取組への士気を高めます。
- (3) 当事業を通じた取組を生かし、サミット終了後も継続する国際理解・国際交流事業の展開につなげていきます。

4 今後の進め方

受託事業者において、11月中を目途に、園・学校及び一般向けの国際理解・国際交流プログラムの開発、学校や市町等の多用な主体に対して事業の周知・啓発を行い、多くの県民の方々に利用いただけるようにするとともに、県や県民会議等が企画するイベント等において、サミット参加各国についてのパネル展示を行うなど、国際理解・国際交流に繋がる事業を実施します。

平成27年10月13日
開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させ、来県者（主に報道関係者）への支援を行うなど、世界各国からの来県者をおもてなしの心でご案内できるようインフォメーションセンターを設置する。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

- ① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）
 - ・国際メディアセンター
 - ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信
- ② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在市町主体）
 - ・JR津駅、なぎさまち旅客ターミナル、JR松阪駅、JR伊勢市駅
 - 近鉄宇治山田駅、近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等
 - ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内
- ③ 三重県外（運営主体：愛知県・名古屋市・中部経済連合会等と調整）
 - ・中部国際空港、名古屋駅等
 - ・現地への移動支援と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

- ①県民会議スタッフ、委託先スタッフ、外国語案内ボランティア
 - ②運営主体のスタッフと県民会議派遣の外国語案内ボランティア
 - ③運営主体のスタッフと県民会議スタッフ
- ※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

- (1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。
- (2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し派遣する。
- (3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、県民会議以外のスタッフについても合同で研修を行う。また主に外国人を対象とした接遇用ハンドブックを制作し広く活用する。

4 今後のスケジュール

平成27年 9月～10月	県内設置に係る調整
平成27年 9月～12月	県外設置に係る調整
平成28年 5月20日(金)～28日(土)	インフォメーション設置

平成27年10月13日
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、県内主要駅等に設置するインフォメーションセンターにおいて、特に外国人報道関係者への支援のため、外国語案内ボランティア活動を実施することで、サミットの円滑な運営に寄与する。

2 取組内容

(1) 募集

外国語（主に英語）による案内業務が可能なボランティアを公募する。

(2) 研修

ボランティア参加者に対し、語学研修及び接遇研修等を実施する。

(3) 活動

インフォメーションセンターにおいて、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて外国人報道関係者を支援する。

3 取組方針

- (1) 募集、研修及びコーディネート業務を企画提案コンペにより外部委託する。
- (2) 募集にあたり、県内の語学ボランティア団体等を対象に、県民会議主催の関係者説明会を実施する。
- (3) 募集対象は、一般、大学生、外国人留学生及び高校生とし、募集人数は100人程度とする。
- (4) ボランティア参加者の能力に応じた語学研修及び接遇研修等を実施し、能力の向上を図る。また、ボランティア参加者の応募状況に応じ、複数会場での研修を検討する。
- (5) 活動場所は、設置されるインフォメーションセンターのうち県内のものとし、活動期間は、サミット開催日（5月26日、27日）の1週間前から会議終了日の翌日までとする。
- (6) ボランティア参加者が、県内で開催されるMICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる体制づくりを行う。
- (7) インフォメーションセンター以外での外国語ボランティア活動についても検討する。

4 今後のスケジュール

平成27年10月～12月	ボランティア募集
平成28年 2月～ 3月	ボランティア研修（語学、接遇）
4月～ 5月	ボランティア結団式
5月 20日～28日	ボランティア活動
6月	ボランティア解散式

